CFP 算定キット
操作マニュアル

2012 年 4 月 1 日

社団法人産業環境管理協会

目次

1. はじめに 4
1.1 概要と目的 4
1.2 動作環境 4
1.3 マクロ設定の確認・変更 4
1.4 算定キットのダウンロードと開始 5
1.5 スタート 6
2. 外部ファイルのインポート 8
2.1 外部ファイルの種類とインポート 8
2.2 インポートとバックアップ 8
2.3 ダウンロード・インポート手順 10
2.4 各種テンプレートについて 13
2.4.1 数値定義 14
2.4.2 プロセス定義 16
2.4.3 シナリオ定義 18
3. 申請に必要なデータの入力 20
3.1 申請書の入力・編集の概要 20
3.2 各シートへの移動 21
3.3 A) 直接入力・編集するシートの編集 23
3.3.1 (1) 検証申請書 23
3.3.2 (2) 詳細情報＜最終財用＞ 24
3.3.3 (2) 詳細情報＜中間財用＞ 25
3.3.4 (3) マーク表示 26
3.3.5 (4) フロー図 27
3.4 B) 数値定義シートの編集 28
3.4.1 数値定義ユーティリティ 28
3.4.2 各項目の説明・解説 38
3.4.3 その他の機能 44
4. CFP 検証申請書の出力と保存 49
5. テンプレートとして保存 50
6. 算定キットの終了 51
7. その他（注意事項等） 52
7.1 インポート時の注意点 52
7.1.1 バージョンチェック 52

7.1.2 テンプレートのインポートについて 52
7.2 その他のメッセージ..... 53
7.2.1 「メモリ不足です。完全に表示できません」メッセージ..... 53
7.2.2 「ファイルエラー：データが失われた可能性があります。」メッセージ..... 54
7.2.3 「検証申請書のインポート中に予期しないエラーが発生しました」メッセージ
..... 55

1. はじめに

1.1 概要と目的

CFP 算定キットは、カーボンフットプリント制度試行事業において、カーボンフットプリント（以下、「CFP」という）の算定結果と表示方法の検証及び CFP マークの付与を希望される事業者が、算定から CFP 検証申請書の作成を円滑に進めることを支援するプログラムです。

1.2 動作環境

CFP 算定キットは、以下の環境で動作します。

対応 OS	・Microsoft Windows XP（Service Pack2 以降） ・Microsoft Windows Vista ・Microsoft Windows 7
対応プラットフォーム	・Microsoft Excel 2003 ・Microsoft Excel 2007 ・Microsoft Excel 2010
要求 PC スペック	・CPU 1GHz 以上 ・RAM 1GB 以上 ・HDD 空き容量 100MB 以上
要求モニタ解像度	・1024×768 ドット以上 （1280×1024 ドット以上を推奨）

1.3 マクロ設定の確認・変更

CFP 算定キットは Microsoft Excel のマクロを使用します。マクロが無効の状態では、CFP 算定キットは動作することができませんので、マクロの設定が有効になっているかをご確認ください。

マクロが有効になっていない場合は、予め Microsoft Excel や Office の設定を変更し、マクロを有効にしてください。マクロの変更設定操作は、Excel や Office のバージョンによって

異なりますので、Microsoft が提供しているバージョンごとのマクロ設定情報を参考にしてください。

1.4 CFP 算定キットの入手と、プログラムの実行

カーボンフットプリントホームページの CFP 算定キットページにある「CFP 算定キットプログラム利用パッケージ」をダウンロードします。

ダウンロードと開始の手順：

(1) 「CFP 算定キットプログラム利用パッケージ.zip」をダウンロードし、デスクトップや任意に作成したフォルダー（例:「CFP 算定」等）に保存します

(2) ダウンロードした ZIP ファイルをダブルクリックすると自動で解凍が開始され、以下の３つのファイルが入手できます。

① CFP 算定キットプログラム

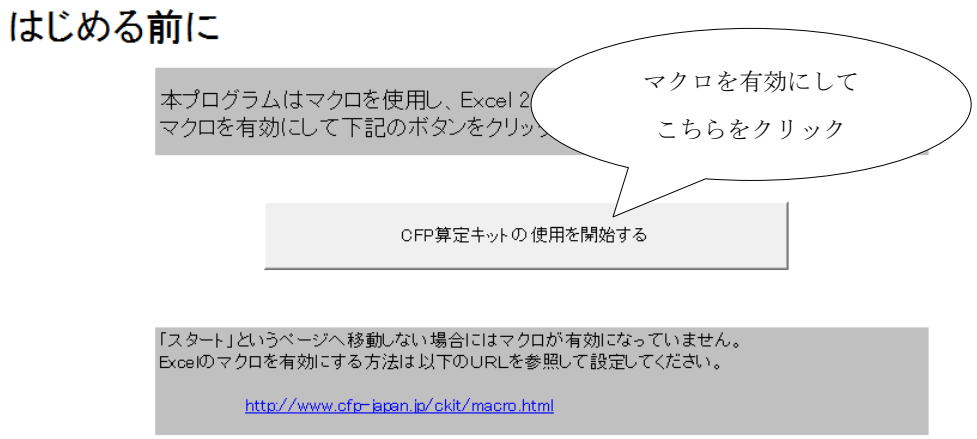
② CFP 算定キットプログラム操作マニュアル

③ CFP 算定キットのご利用にあたっての注意事項

(3) CFP 算定キットプログラムをダブルクリックすると、CFP 算定キットが起動しますが、ここでマクロが有効になっていない場合、下記の「はじめる前に」シートが表示されますので、マクロを有効にした上で「CFP 算定キットの使用を開始する」をクリックしてください。

(4) 「スタート」シートへ移動します。移動しない場合は CFP 算定キットファイルを一旦閉じ、再度起動させた上で「CFP 算定キットの使用を開始する」をクリックします。

◆ マクロの設定が有効になっていない場合、以下のような画面が表示されます



1.5 スタート

CFP 算定キットを起動させると「スタート」シートが表示されます。このシートが表示されれば CFP 算定キットの使用を開始できます。また、このシートを起点として、CFP 検証申請書の作成を進めます。

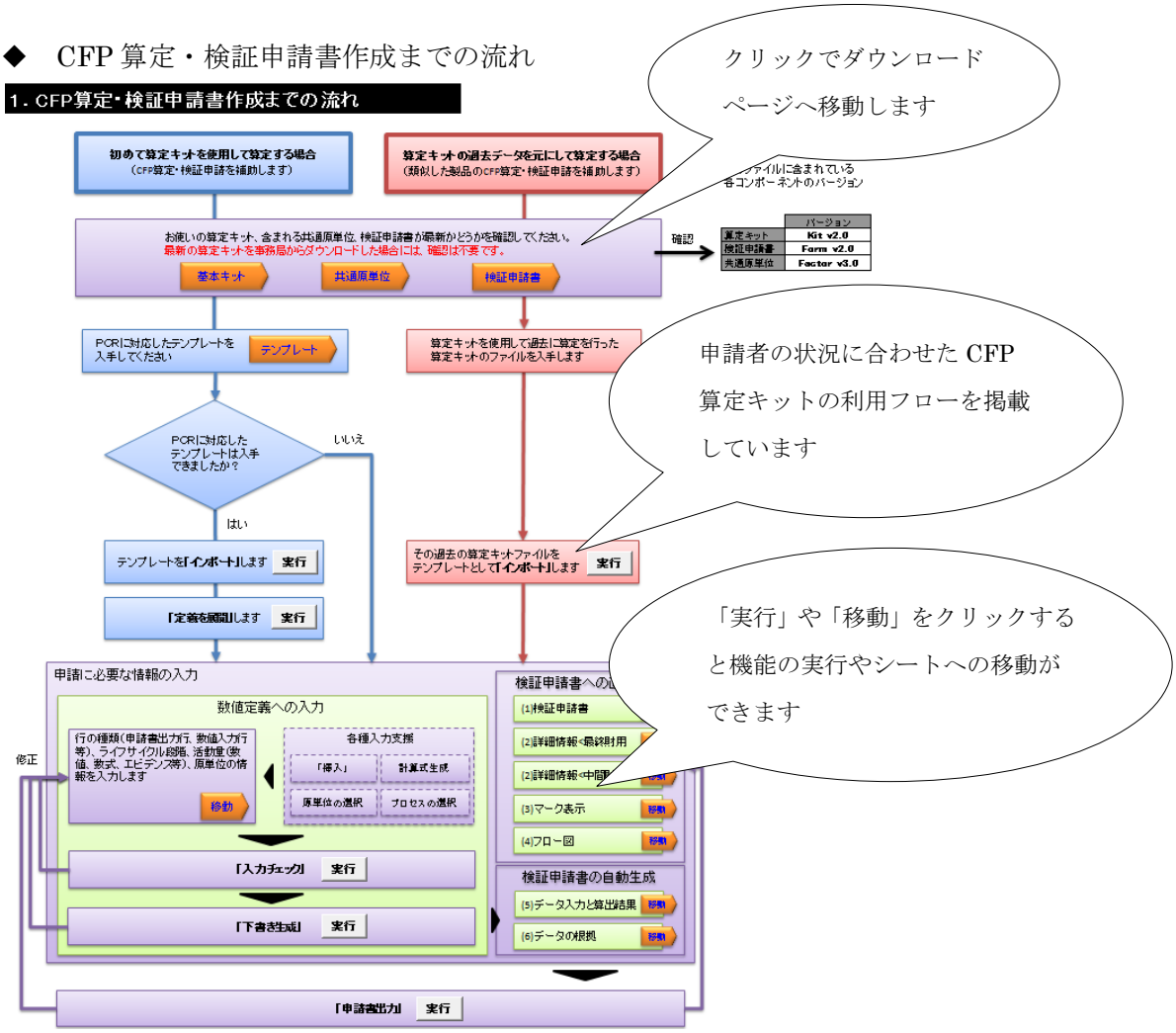
「スタート」シートでは CFP 算定キットの機能を以下の 2 種類の形で表現しています。

1. CFP 算定・検証申請書作成までの流れ
2. メニュー

「1. CFP 算定・検証申請書作成までの流れ」は、フローチャートに沿って、CFP の算定・検証申請を進められますので、初めて CFP 算定キットをご使用される方はこちらに沿ってご利用ください。

「2.メニュー」は CFP 算定キットの機能を集めたもので、ある程度 CFP 算定キットの操作に慣れた場合に使いやすいメニュー構成となっています。

◆ CFP 算定・検証申請書作成までの流れ



フローチャート形式で CFP 算定キット利用の流れを説明しています。「移動」をクリックするとダウンロードサイトや目的とするシートへ移動します。「実行」ボタンを押すと、ボックス内の機能が実行されます。

◆　メニュー

2. メニュー

2-1. 最新ファイルのダウンロードと、インポート

各種シートのダウンロード・インポートを行う場所

ファイルの種類	含まれるシート名	バージョン	アクション	最新版ダウンロード先
①算定キット	今開いているExcelファイル	Kit v2.2	新たにダウンロードしたファイルをご利用ください	http://www.cfp-japan.jp/ckit/basic.html
②CFP検証申請書	(1)検証申請書 ②詳細情報＜最終財用＞ ②詳細情報＜中間財用＞ (3)マーク表示 (4)フロー図 (5)データ入力と算出結果 (6)データの根拠	Form v2.1	インポート	http://www.cfp-japan.jp/ckit/appform.html インポートを行うと(1)~(6)のデータが失われます。(5)(6)のデータは数値定義へ入力された情報から生成されます。
③共通原単位	共通原単位	Factor v3.0	インポート	http://www.cfp-japan.jp/ckit/factor.html
④テンプレート	数値定義 プロセス定義 シナリオ定義		インポート	http://www.cfp-japan.jp/ckit/template.html インポートを行うと、算定キット内の同じシート名のワーク

申請書の入力・編集を行い、その内容を「(5) データ入力と算出結果」と「(6)データの根拠」シートへ反映を行う場所

2-2. 各シートの編集と下書き生成

編集方法	シート名	アクション	備考
直接編集します	(1)検証申請書 ②詳細情報＜最終財用＞ ②詳細情報＜中間財用＞ (3)マーク表示 (4)フロー図 数値定義	それぞれのシートへ移動して編集をしてください	詳細情報表示のカーボン… 段階別の内訳に… 書きされま…
生成	(5)データ入力と算出結果 (6)データの根拠	下書き生成	CF… こ… も下…

反映した内容を CFP 制度試行事業事務局に提出する申請書を出力する場所

2-3. 申請書の出力

下書きへ出力された情報を元に、CFP検証申請書のExcelファイルが生成されますので、適宜保存してCFP試行制度事務局へご提出をお願いいたします。

申請書出力

バックアップの作成を行う場所

2-4. バックアップ

データを含む、この算定キットのバックアップを保存します。同じフォルダ中に「****_バックアップ_YYMMDD-hhmmss」…ップファイルを作成します。
ただし、「****」は算定キットのファイルの名称、「YYMMDD-hhmmss」はバックアップを実行時の、「年月日-時分…」を表します。

バックアップ作成

独自テンプレートを出力する場所

2-5. テンプレートのエキスポート

この算定キットに含まれる、「数値定義」「シナリオ定義」「プロセス定義」シートを別のExcelブックとして保存します。

テンプレートとして保存

こちらの画面では、メニュー形式で各種機能の実行やシートへの移動が行えますので、素早く目的の機能の実行やシートへのアクセスが可能となります。そのため、操作に慣れてきた方はこちらのご利用を推奨します。

2. 外部ファイルのインポート

2.1 外部ファイルの種類とインポート

CFP 算定キットでは、必要に応じて以下の３種類の外部の Excel ファイルを取り込むことができます。

- CFP 検証申請書
- 共通原単位
- テンプレート（プロセス定義、シナリオ定義、数値定義）

CFP 算定キットファイルを新たに CFP 制度試行事業 HP からダウンロードした時点では「CFP 検証申請書」、「共通原単位」はともに最新のものがインポート済みの状態ですので、これらのファイルのインポートは不要です。

PCR に対応したテンプレートが存在する場合にのみ、「テンプレート」のダウンロード・インポートを行います。ただし、「テンプレート」は CFP 算定キットを使用する上では必須ではありません。
外部ファイルをインポートせずに CFP 算定キットを使用する場合には、この章をスキップしていただいてもかまいません。

> 検証申請の際には、最新バージョンの CFP 検証申請書ファイル、共通原単位ファイルが必要となります。古いバージョンの CFP 検証申請書や共通原単位を使用していると検証申請を受け付けられないことがありますので、ご注意ください。

2.2 インポートとバックアップ

CFP 検証申請書をインポートした場合は 「(1)検証申請書」 ～ 「(6)データの根拠」 までの各シートについて、空のものと入れ替えがなされ、それまでに入力した全ての情報が失われます。

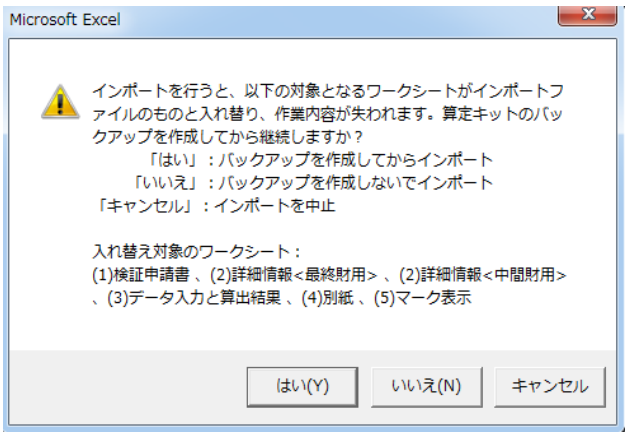
テンプレートをインポートした場合も同様に、そのテンプレートに、「プロセス定義」、「シナリオ定義」、「数値定義」の各シートが含まれているものについて入れ替えがなされます。そこで、作業内容を失わないために、インポート前にバックアップを作成するようにメッセージが出ますので、それに従いバックアップを作成してからインポートを行ってください。

CFP 算定キットのバックアップは以下のケースで作成することができます。

- CFP 検証申請書のインポート前
- テンプレートのインポート前
- 数値定義の「フォーマット修復」の前
- スタート　＞　メニュー　＞　2-4.バックアップ　から手動で実行

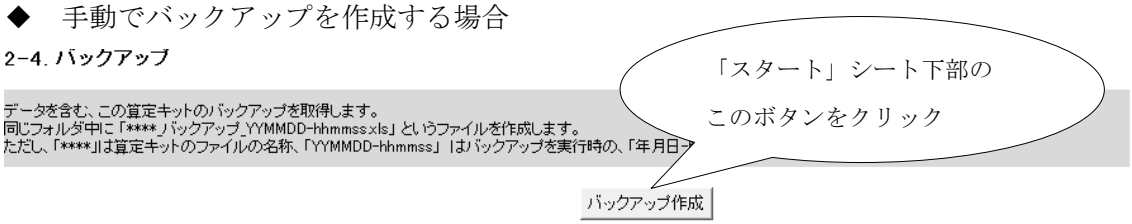
バックアップでは、現在利用中の CFP 算定キットファイルと同じフォルダの中に 「(CFP 算定キットファイル名）_バックアップ_（年月日-時分秒）.xls」 といったファイルが作成されます。
例：CFP 算定キット_バックアップ_20110301-210000.xls

◆　CFP 検証申請書のインポート前にバックアップ作成の有無を確認するダイアログ



通常は「はい」を選択してバックアップを作成してからインポートしてください。

◆　手動でバックアップを作成する場合

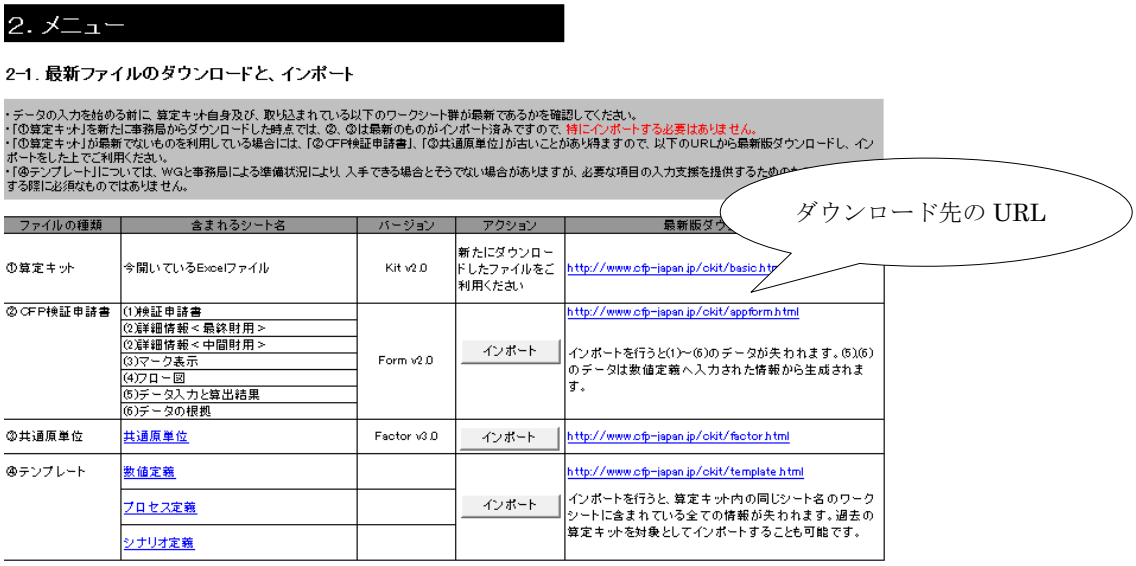


2.3 ダウンロード・インポート手順

ここでは、最新版のファイルのダウンロードとインポートの手順を説明します。

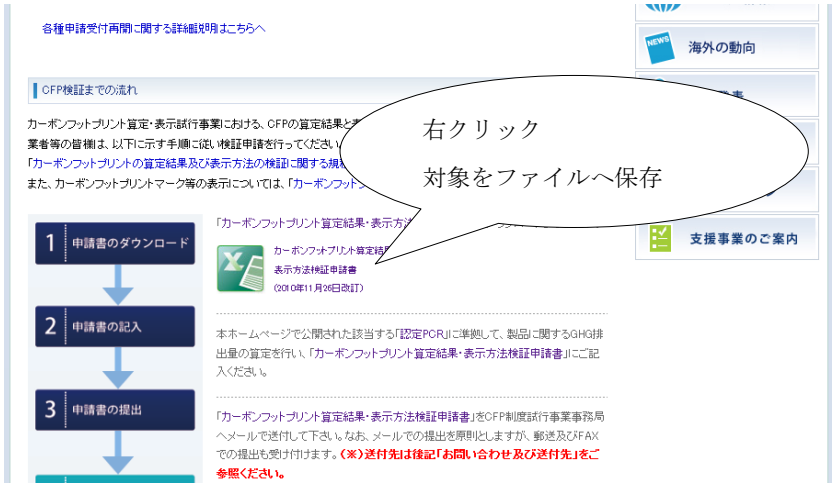
(1) スタートで指定されているダウンロード先のホームページを開き、最新版のファイルをダウンロードします。

◆ リンクをクリックしてウェブサイトへ移動



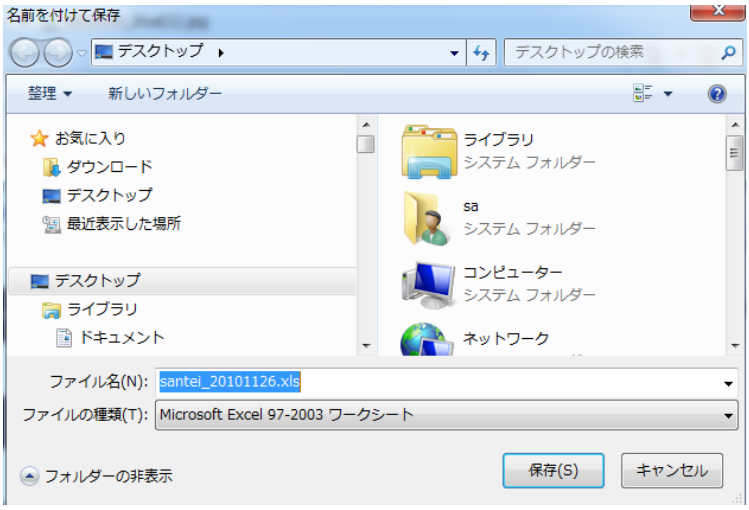
(2) ダウンロードしたファイルをデスクトップや任意の場所に保存します。

◆ ウェブサイトで、CFP 検証申請書の Excel ファイルを保存



（図は最新のものではありません。）

◆　名前を付けて保存ダイアログ



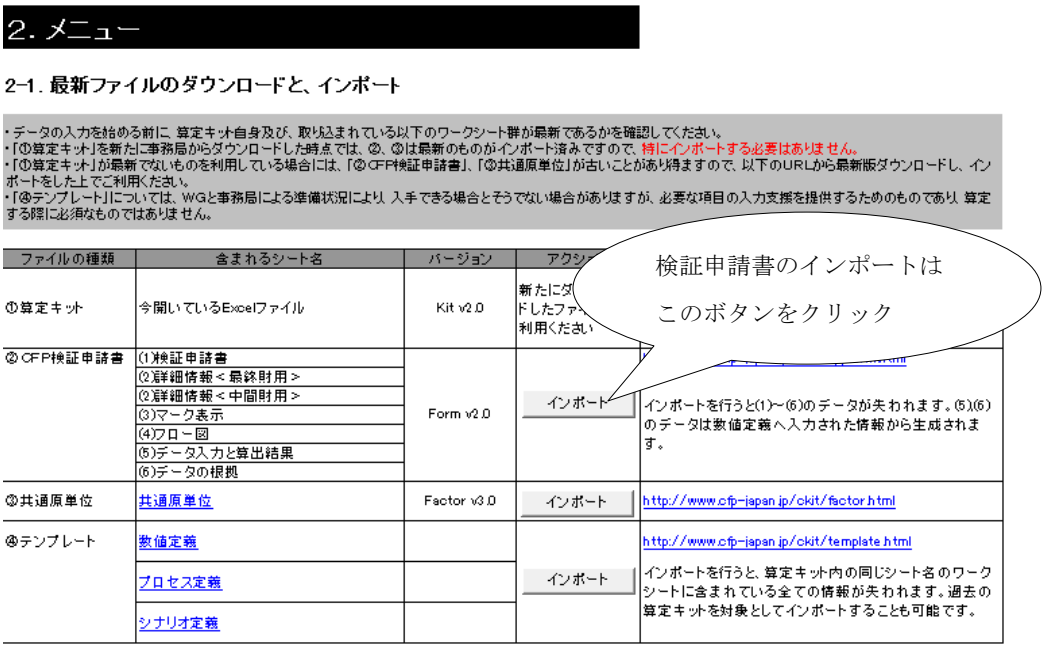
(3)　「インポート」ボタンをクリックしてインポートを開始します。

スタート　＞

2-1 最新ファイルのダウンロードとインポート　＞

②CFP 検証申請書の「インポート」ボタンをクリック

◆　インポートボタン



2. メニュー

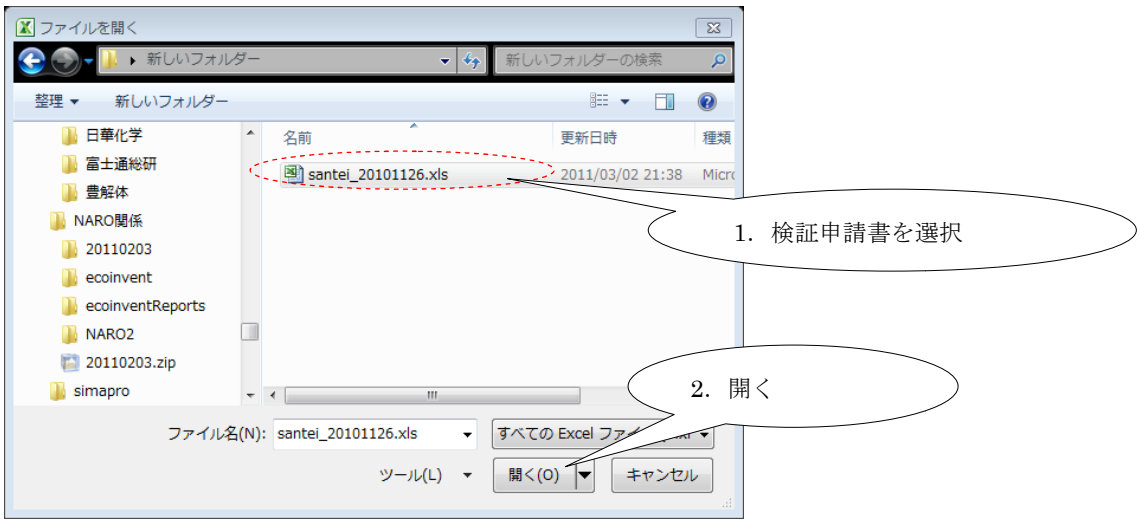
2-1. 最新ファイルのダウンロードと、インポート

・データの入力を始める前に、算定キット自身及び、取り込まれている以下のワークシート群が最新であるかを確認してください。
・「①算定キット」を新たに事務局からダウンロードした時点では、②、③は最新のものがインポート済みですので、特にインポートする必要はありません。
・「①算定キット」が最新でないものを利用している場合には、「②CFP検証申請書」、「③共通原単位」が古いことがあり得ますので、以下のURLから最新版ダウンロードし、インポートをした上でご利用ください。
・「④テンプレート」については、WGと事務局による準備状況により、入手できる場合とそうでない場合がありますが、必要な項目の入力支援を提供するためのものであり、算定する際に必須なものではありません。

ファイルの種類	含まれるシート名	バージョン	アクシ	
①算定キット	今開いているExcelファイル	Kit v2.0	新たにダ ドしたファ 利用ください	
②CFP検証申請書	(1)検証申請書	Form v2.0	インポート	インポートを行うと(1)~(6)のデータが失われます。(5),(6)のデータは数値定義へ入力された情報から生成されます。
	(2)詳細情報＜最終財用＞			
	(2)詳細情報＜中間財用＞			
	(3)マーク表示			
	(4)フロー図			
	(5)データ入力と算出結果			
	(6)データの根拠			
③共通原単位	共通原単位	Factor v3.0	インポート	http://www.cfp-japan.jp/ckit/factor.html
④テンプレート	数値定義		インポート	http://www.cfp-japan.jp/ckit/template.html インポートを行うと、算定キット内の同じシート名のワークシートに含まれている全ての情報が失われます。過去の算定キットを対象としてインポートすることも可能です。
	プロセス定義			
	シナリオ定義			

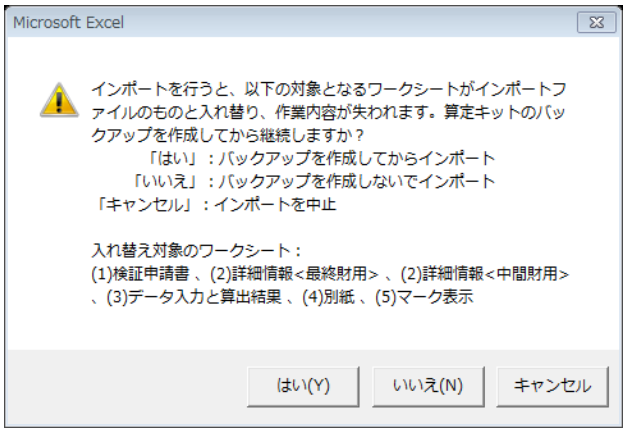
検証申請書のインポートは
このボタンをクリック

(4) 「ファイルを開く」ダイアログが立ち上がるので、先ほど保存した CFP 検証申請書ファイルを選択し、ファイルを開きます。



(5) インポートによる作業内容消失の確認メッセージが表示され、バックアップを作成するか否かを聞かれるので必要に応じてバックアップを作成してください。
※共通原単位のインポート時はバックアップや上書きの確認は行われません。

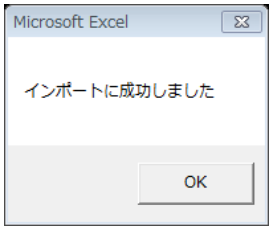
◆ バックアップの確認のメッセージ



「はい」　⇒バックアップを作成した上でインポート（元データはバックアップに残存）
「いいえ」⇒バックアップなしでインポートを実施（元データは消失）
「キャンセル」⇒インポートは実行されない（元データはそのまま残存）

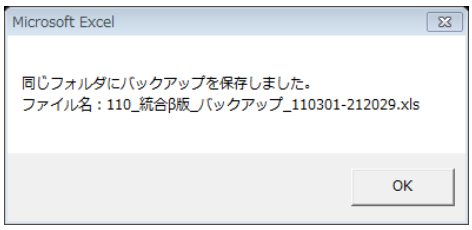
(6) 「インポートに成功しました」と表示されればインポート完了です。

◆ インポート成功のメッセージ



バックアップで「はい」を選択した場合は「同じフォルダにバックアップを保存しました」と表示されてから、上記メッセージが表示されます。

◆ バックアップ完了のメッセージ



共通原単位、テンプレートに関しても同様の手順でインポートを実施することができます。

2.4 各種テンプレートについて

テンプレートを使用すると算定に必要な項目、計算式、実際のデータ収集項目があらかじめ設定されているため、シナリオ数値の間違い、原単位の間違い、項目忘れなどのミスを低減することができます。CFP 算定キットのテンプレートは Excel のワークシート形式で記述されており、以下の 3 種類のシート（それぞれの内容については後述）があります。

- 数値定義
- プロセス定義
- シナリオ定義

テンプレートは、独自に編集して作成することもできますが、PCR によっては CFP 制度試行事業 HP（http://www.cfp-japan.jp/）の認定 PCR 一覧ページからも入手できます。

◆　CFP 算定キットのテンプレートのダウンロード

（図は最新のものではありません。）

2.4.1 数値定義

2.4.1.1 概要

「数値定義」は、「(5)データ入力と算出結果の詳細」「(6)データの根拠」の生成元の「数値定義」シートそのものを表します。このシートをインポートする場面としては以下のような場合が考えられます。

- CFP 検証申請書や、共通原単位のバージョンが上がり、以前の算定キットが利用できなくなった時に、作業内容を過去の算定キットから最新の算定キットへ移動する場合
- 過去に算定キットで作成したファイルを元に事業者が新たに算定・申請を行う場合
- シリーズ商品、類似商品について、特定の値だけを書き換えて申請を行う場合
- CFP 試行事業 HP から取得したテンプレートをインポートする場合

◆　「数値定義」シートのイメージ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	数値定義														
11															
12															
13			LC段階など						活動量						
14	行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式種類	計算式内容
15	区切り行														
16	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス名			
17	数値入力行								梱包材重量	2.00E+00	kg	部品カタログ			
18	数値入力行								同梱個数	2.00E+01	個	部品カタログ			
19	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t				
20	数値入力行								輸送距離	5.00E+02	km	エビデンス名			
21	申請書出力行		…	原材料調達			トラック輸送トンキロ		トラック輸送トンキロ	5.50E-01	kg		1次	自動（数値あり）	〔トラック輸送トンキロ〕5.50E-01 kg=（〔輸送物重量〕1.00E+00kg+〔梱包材重量〕2.00E+00kg÷〔同梱個数〕2.00E+01 個）×〔輸送距離〕5.00E+02km÷〔1000〕1.00E+03kg/t
22	区切り行														
23	数値入力行								廃棄物重量	1.00E+02	kg	製品カタログ			
24	数値入力行								焼却処理の割合	9.20E+01	%	シナリオ			
25	数値入力行								リサイクル処理の割合	5.00E+00	%	シナリオ			

2.4.1.2　作成・編集・取り込み

数値定義は、CFP 検証申請書を作成する元となるデータで、算定を進めながら作成されていくものです。数値定義の作成・編集は、「3.4 B) 数値定義シートの編集」をご参照下さい。

なお、数値定義を作成・編集し、テンプレートとして位置付けるためには、複数の製品間で共通するパラメータを意識して作成することが重要です。

例えば、同じ輸送経路を通過する製品であれば、その経路がどれだけ複雑なものであったとしても、異なる製品間で共通するパラメータは、製品の重量と一つの製品あたりで使用される輸送資材の量になります。それらの製品間で共通するパラメータを「数値入力行」（後述）として用意しておくことで、一つの数値定義を、同じ輸送経路をたどる多くの製品の算定の元として共有でき、算定負荷を軽減することができます。

このようにして作成された数値定義のテンプレートは、インポート機能でそのまま CFP 算定キットへ取り込むか、Excel のコピー&ペースト機能を使用してその一部を「数値定義」シート貼り付けて利用します。

CFP 算定キットへインポートする場合にはシート名称が「数値定義」となっている必要があります。また、ヘッダーが規定のものと違っているとインポートされませんので、必ず CFP 算定キットで提供されたものをベースにヘッダーを変更しないように注意しながら編集を進めてください。（CFP 算定キット内で「数値定義」シートの編集を行う場合にはヘッダーへの編集は行えないように制御されています）

2.4.2 プロセス定義

2.4.2.1 概要

「プロセス定義」シートは PCR に記載されているデータ収集項目を 5 列からなる表の形へ変換したもので、PCR を表形式へ変換したものとも言えます。このシートをインポートしておくと以下のような入力支援機能が使用できるようになります。

- 「定義を展開」ボタン（後述）による数値定義への申請書出力行の一括出力
- 「プロセス選択」機能（後述）においてライフサイクル段階（以下、「LC 段階」という）の選択

◆ 「プロセス定義」シートのイメージ

	A	B	C	D	E
1	プロセス定義				
2					
3	段階	サブタイトル	プロセス	項目	単位
4	原材料調達	表紙	製造	表紙原材料	kg
5	原材料調達	表紙	輸送	表紙原材料	tkm
6	原材料調達	表紙	排水処理	表紙原材料	m3
7	原材料調達	表紙	廃棄物処理	表紙原材料	kg
8	原材料調達	とじ具	製造	とじ具原材料	kg
9	原材料調達	とじ具	輸送	とじ具原材料	tkm
10	原材料調達	とじ具	排水処理	とじ具原材料	m3
11	原材料調達	とじ具	廃棄物処理	とじ具原材料	kg
12	原材料調達	付属品	製造	付属品原材料	kg
13	原材料調達	付属品	輸送	付属品原材料	tkm
14	原材料調達	付属品	排水処理	付属品原材料	m3
15	原材料調達	付属品	廃棄物処理	付属品原材料	kg
16	原材料調達	包装資材	製造	個包装(容器)	kg
17	原材料調達	包装資材	輸送	個包装(容器)	tkm
18	原材料調達	包装資材	排水処理	個包装(容器)	m3
19	原材料調達	包装資材	廃棄物処理	個包装(容器)	kg
20	原材料調達	包装資材	製造	完成品梱包材	kg
21	原材料調達	包装資材	輸送	完成品梱包材	tkm
22	原材料調達	包装資材	排水処理	完成品梱包材	m3
23	原材料調達	包装資材	廃棄物処理	完成品梱包材	kg
24	原材料調達	包装資材	製造	段ボール	kg
25	原材料調達	包装資材	輸送	段ボール	tkm
26	原材料調達	包装資材	排水処理	段ボール	m3
27	原材料調達	包装資材	廃棄物処理	段ボール	kg
28	生産	中間製品(表紙)	加工	燃料	kg
29	生産	中間製品(表紙)	加工	電力	kWh
30	生産	中間製品(表紙)	加工	上水･工業用水	m3
31	生産	中間製品(表紙)	中間製品輸送	中間製品サイト⇒完成品サイト	tkm

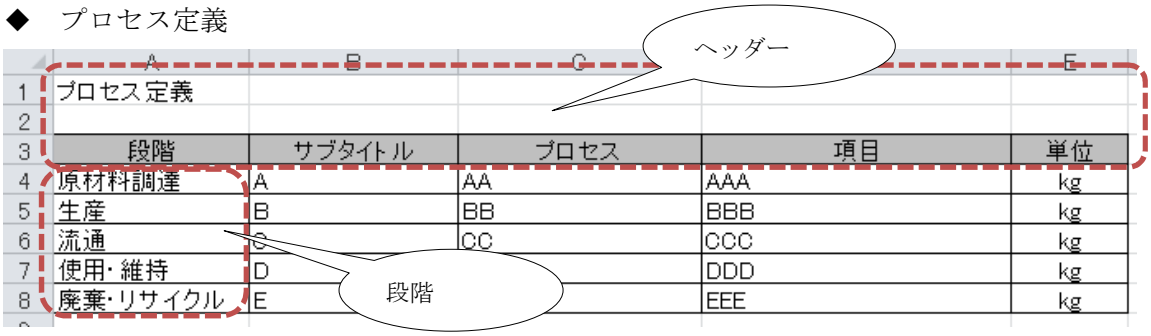
2.4.2.2 作成･編集･取り込み

PCR 毎に用意された「プロセス定義」シートを含むテンプレートが入手できない場合や、入手した「プロセス定義」シートが詳細すぎて当該製品に合致しない項目が多い場合等には、「プロセス定義」シートを直接作成・編集します。「プロセス定義」シートは Excel で編集することができます。

編集の注意点としては、段階の文字列（A 列）には以下の 5 段階の文字列（「原材料調達」、「生産」、「流通」、「使用・維持」、「廃棄・リサイクル」）が入力されている必要があります。これらは CFP 検証申請書の段階表示に対応しており、これ以外の文字列が指定された場合（例：「使用・維持管理」）入力チェックで不適切な段階名という判定を受けたり、選択補

助機能で表中に表示をされなかったりして正しく動作しませんので、ご注意ください。

◆　プロセス定義



	A	B	C	D	E
1	プロセス定義				
2					
3	段階	サブタイトル	プロセス	項目	単位
4	原材料調達	A	AA	AAA	kg
5	生産	B	BB	BBB	kg
6	流通	C	CC	CCC	kg
7	使用・維持	D		DDD	kg
8	廃棄・リサイクル	E		EEE	kg

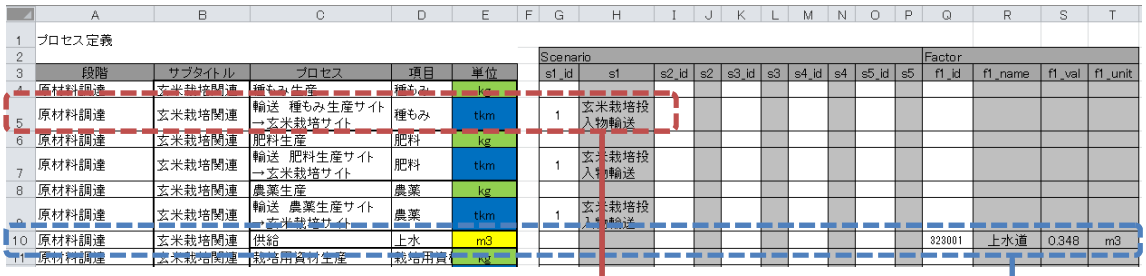
なお、CFP 算定キットへインポートするためにはシートの名称が「プロセス定義」となっている必要があります。また、ヘッダーが既定のものと違っているとインポートされませんので、必ず CFP 算定キットで提供されたものをベースにヘッダーを変更しないように注意しながら編集を進めてください。

2.4.2.3 プロセス定義の拡張

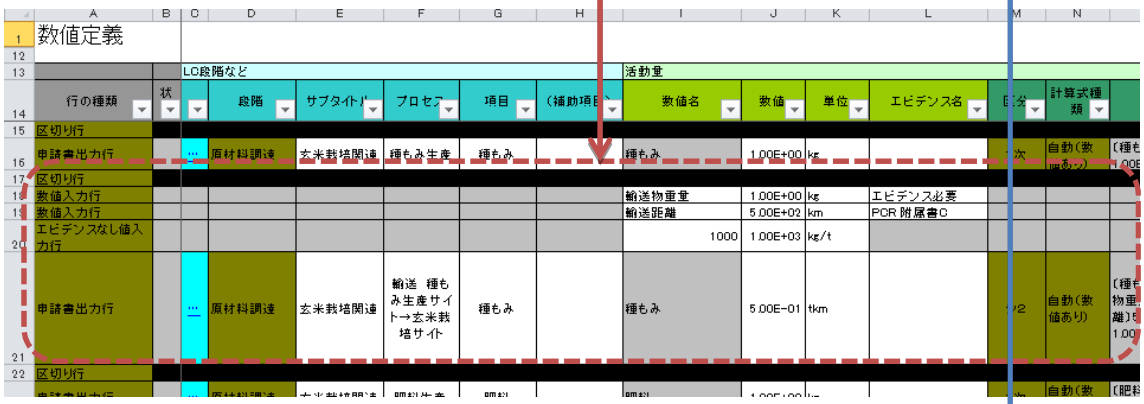
CFP 算定キット v2.1 より、プロセス定義の定義内容を更に拡張したフォーマットも利用できるようになりました。各項目行に対して、シナリオや原単位を指定しておくことで、プロセス定義を展開した時に、指定したシナリオの計算式のブロックや原単位が数値定義に反映されます。
このプロセス定義の拡張機能は、従来の 5 列からなるプロセス定義のさらに G 列～T 列までを利用し、各項目行に対して、シナリオを最大で 5 つ、原単位を一つ設定することができます。

項目行に対して、シナリオの設定を行うには、G 列にシナリオ定義の ID 値（シナリオ定義の ID 値はシナリオ定義シートの A 列の数字）を記入します。複数のシナリオを連結する場合には、I 列、K 列、M 列、O 列へ順番に複数 ID を指定していきます。例えば、海運を含む海外からの輸入の輸送シナリオの場合、G 列には「海外工場⇒海外港」、I 列には「海外港⇒国内港」、K 列には「国内港」⇒「国内工場」のシナリオの ID をそれぞれ指定するといったように定義を行います。
特定の項目行に対して割り当てるべきシナリオがない場合には原単位を設定することができます。この場合には、Q 列に共通原単位の ID（共通原単位シートの A 列の公開用整理番号にあたる数字）を記入します。
なお、一つの項目行に対して、原単位とシナリオの両方が指定されている場合には、シナリオの指定が優先され原単位の指定は無視されます。また、存在しないシナリオ ID を指定した場合には定義は展開されません。

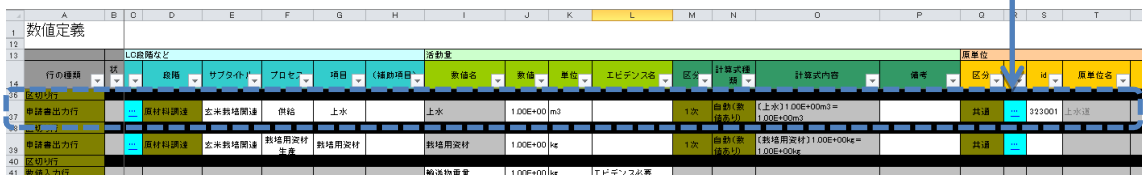
◆　拡張したプロセス定義のイメージ（「うるち米」の場合）



◆　拡張したプロセス定義を数値定義へ展開
（輸送シナリオを指定した行の例）



◆　拡張したプロセス定義を数値定義へ展開
（「上水」の原単位を指定した行の例）



2.4.3 シナリオ定義

2.4.3.1 概要

「シナリオ定義」シートは PCR に記載されているシナリオに基づき、数値定義内の複数行へまとめて名前をつけ、作成されたものです。
インポートしておくと、「ブロック挿入」機能（後述）で、特定のシナリオを表す行（複数の行）の入力がワンクリックでできるようになります。

2.4.3.2 作成・編集・取り込み

PCR 毎に用意された「シナリオ定義」シートを含むテンプレートが入手できない場合や、独自のシナリオを使用したい場合には、「シナリオ定義」シートを作成・編集します。「シナリオ定義」シートは Excel でも編集できますが、通常は「数値定義」シートで編集された行をコピー&ペーストして作成していきます。
なお、「シナリオ定義」シートの内容は、先頭の 2 列以外は、「数値定義」シートと同一です。

「シナリオ：」列に表示された値の重複を排除したものが、数値定義ユーティリティのプルダウンに現れ（「挿入」プルダウン内では、「シナリオ：」の接頭辞が付きます）選択されて「挿入」ボタンが押下されると、その値に該当する C 列以降の範囲が「数値定義」シートにコピーされます。

そこで、同じシナリオに属する行については、「ID」「シナリオ：」の欄には同じ値を設定します。（以下の例では、「玄米栽培投入物輸送」というシナリオについて、13 行目～17 行目においては全て「ID」については「1」が、「シナリオ：」については「玄米栽培投入物輸送」という値が設定されています）

◆　「シナリオ定義」シート

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	シナリオ定義											
10					LC段階など						活動量	
11												
12	ID	シナリオ:	行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値
13	1	玄米栽培投入物輸送	区切り行									
14	1	玄米栽培投入物輸送	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00
15	1	玄米栽培投入物輸送	数値入力行								輸送距離	5.00E+02
16	1	玄米栽培投入物輸送	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03
17	1	玄米栽培投入物輸送	申請書出力行		…	原材料調達			輸送物輸送トンキロ		輸送物輸送トンキロ	5.00E-01
18	2	乾燥調整施設輸送	区切り行									
19	2	乾燥調整施設輸送	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00
20	2	乾燥調整施設輸送	数値入力行								輸送距離	5.00E+01
21	2	乾燥調整施設輸送	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03
22	2	乾燥調整施設輸送	申請書出力行		…	原材料調達			輸送物輸送トンキロ		輸送物輸送トンキロ	5.00E-02
23	3	精米工場輸送	区切り行									

これらの「ID」「シナリオ：」列で指定した値が既に別のシナリオで使用した値と重複しないように設定する必要があります。重複してしまった場合には、最上の列にあるシナリオだけが挿入され、それよりも下のシナリオは無視されることになりますのでご注意ください。なお、CFP 算定キットへインポートするためには「シナリオ定義」というシート名称となっている必要があります。また、ヘッダーが変更されているとインポートされませんので、必ず CFP 算定キットで提供されたものをベースにヘッダーを変更しないように注意しながら編集を進めてください。

3. 申請に必要なデータの入力

3.1 申請書の入力･編集の概要

CFP 算定キットにおける算定と CFP 検証申請書の作成は､以下の 3 種類のシートに必要な各種データの入力・編集・生成によって行います。

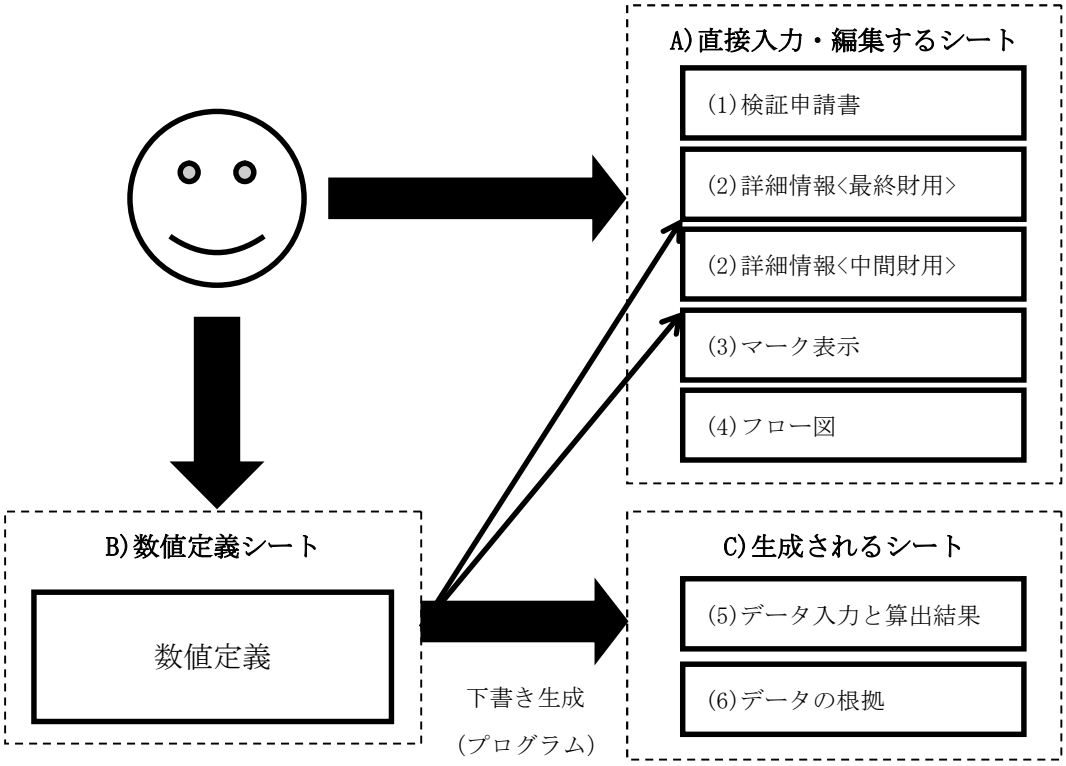
シートの種類：

A) 直接入力・編集するシート（CFP 検証申請書の (1),(2),(3),(4) ）

B) 数値定義シート（数値定義）

C) 生成されるシート （CFP 検証申請書の(5),(6) ）

◆ シートの入力イメージ

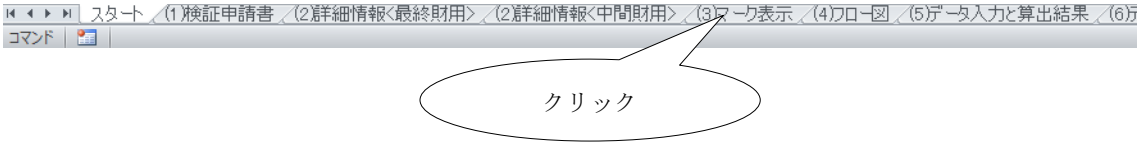


「(5)データ入力と算出結果」及び「(6)データの根拠」のシートには直接入力を行わないでください。入力を行っても「下書き生成」の実行により、入力した内容は全て失われます。これらのシートの内容を変更するには「数値定義シート」へ必要な修正を加えて再度「下書き生成」を実施してください。

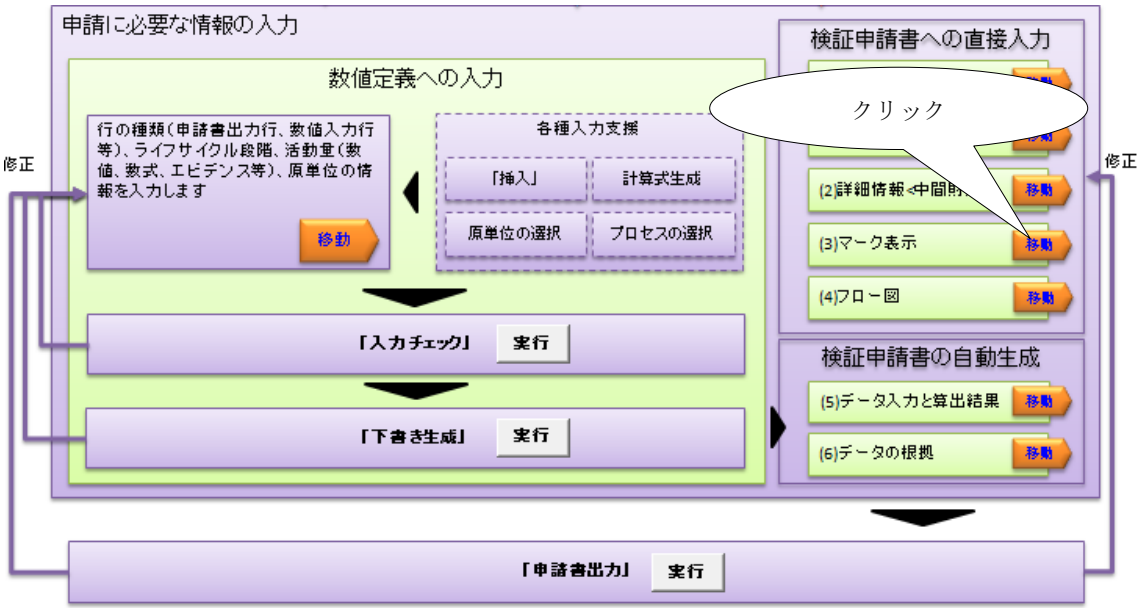
3.2 各シートへの移動

入力・編集を行う各シートへ移動するにはいくつかの方法があります。

◆ Excel のシート名のタブで目的とするシート名をクリックして移動



◆ スタートのフローチャートの「移動」ボタンをクリックして移動



◆ スタートのメニューのリンクで移動

2-2. 各シートの編集と下書き生成

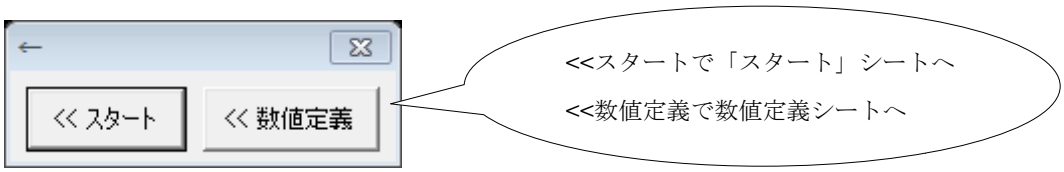
申請に必要なデータを下記の「直接編集」シートへ入力してください。
「下書き生成」ボタンを押すと、「数値定義」へ入力されたデータか　　が生成されます。
検証等で、申請書で変更すべき点が見つかった場合には、必ず　　出力」を行います。このようにして、最低限必要な箇所だけを変更することで、効率的にデータの変更と、申請書の作成をすることが

クリック

編集方法	シート名	アクション	備考
直接編集します	(1)検証申請書	それぞれのシートへ移動して編集をしてください	詳細情報表示のカーボンフットプリント値とライフサイクル段階別の内訳については、下書き生成時の計算結果で上書きされます。
	(2)詳細情報<最終財用>		
	(2)詳細情報<中間財用>		
	(3)マーク表示		
	(4)フロー図		
	数値定義		**CFP算定用データは全てこのシートへ入力して下さい。**
生成	(5)データ入力と算出結果	下書き生成	**この2シートへは入力をしないでください。**入力をしても下書き生成時に全ての内容が失われます。
	(6)データの根拠		

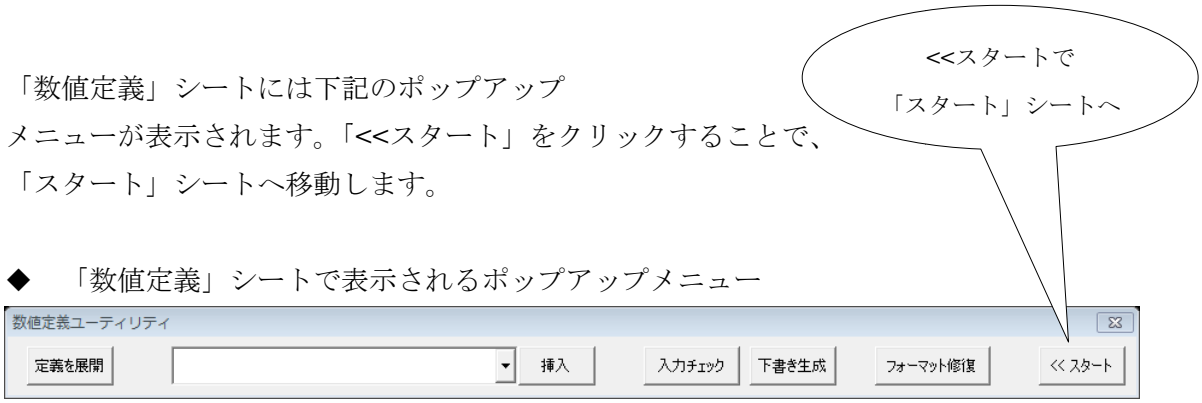
各シートへ移動すると以下のポップアップメニューが表示されます。
「<<スタート」をクリックすると、「スタート」シートへ、「<<数値定義」をクリックすると「数値定義」シートへ移動できます。

◆　各シートで表示されるポップアップメニュー



「数値定義」シートには下記のポップアップメニューが表示されます。「<<スタート」をクリックすることで、「スタート」シートへ移動します。

◆　「数値定義」シートで表示されるポップアップメニュー



3.3 A）直接入力・編集するシートの編集

3.3.1 (1) 検証申請書

このシートは、申請者が、全ての項目を通常の Excel の機能を使用して、直接入力してください。

（記入例）

カーボンフットプリント（ＣＦＰ）算定・表示試行事業
カーボンフットプリント算定結果・表示方法検証申請書

<本ページ（表紙）は、関係者（事務局、省庁、委員、検証員）情報共有用資料となります>

☑ 新規申請 ☐ 変更申請	申請日	2011 年	○ 月 △ 日

検証申請者の連絡先等	
事業者名	○○株式会社
部署名等	製品環境部
役職等	部長
ふりがな 氏　名	たんそ　たろう 炭素　太郎
e-mailアドレス	tanso@xxxxxxx
電話（固定・携帯）	03-1234-xxxx
ＦＡＸ	03-1234-xxxx
所在地	〒102-xxxx 東京都○○区○○丁目○-△△ △△ビル□階
ホームページURL (*1)	http://www.tanso.xxxx

事業者名・申請者名など各項目に直接入力・編集していきます

（*1）検証後、Webサイトの「CFPマーク使用許諾製品一覧」に本申請書「(2)詳細情報シート」を掲載するにあたり自らのホームページへリンクを希望する場合には、本欄に記入してください。

添付資料 (*2)	

（*2）本申請書以外に補足説明資料を添付している場合には、資料名称などを記入してください。

検証後のＷｅｂサイト公開時期への要望など (*3)	当該製品発売が○月の予定なので発売後の公開を希望致します

(*3) 検証後、Webサイトの「CFPマーク使用許諾製品一覧」に本申請書「(2)詳細情報シート」を掲載するにあたり公開スケジュールの調整が必要な場合、その旨をご記入ください。
（製品等の発売・広報計画への影響や、未流通品の情報を公表することによる消費者への混乱を避ける等の正当な理由がある場合に限ります。）

【注意事項】
・最新版のPCRに基づいて計算されていることを必ずご確認下さい。
（CFPホームページ(http://www.cfp-japan.jp/)にて最新版PCRのダウンロードが可能です。）
・「単位あたり」、「機能あたり」の表示を行う場合は、CFP検証にむけて、調整に時間がかかることがございますので予めご了承ください。
（詳細は、「「単位量あたり」「機能あたり」のCFPの算定・表示方法について」[http://www.cfp-japan.jp/regulation/index.html]をご参照下さい。）

入力が完了したら「<<スタート」をクリックして、スタートに戻ります。

3.3.2 (2) 詳細情報＜最終財用＞

CFP マークの使用許諾を得た後ウェブサイトで開示される＜最終材用＞の詳細情報のシートです。検証申請の対象製品が最終財でない場合にはこのシートを編集する必要はありません。

このシートの各項目の入力・編集は、申請者が通常の Excel の機能を使用して行います。

（記入例）

詳細情報　＜最終財＞
（Webサイト公開資料）

1. 製品情報		
1.1	検証番号	（申請時には記入不要です）
1.2	製品名称(日本語)	▲▲▲▲▲▲
	製品名称(英語)	△△△△△△
1.3	製品型式	AB-○○○○
1.4	製品の主要仕様・諸元	サイズ縦○m、横△m、高さ□m 製品重量×××kg
1.5	CFP算定単位	販売単位 1個
2. 事業者情報		
2.1	事業者名(日本語)	株式会社　○○○○
	事業者名(英語)	○○○○ Co.Ltd.
3. CFP算定結果および表示方法		
3.1	CFP算定結果 (カーボンフットプリント)	590kg　ライフサイクル全体
3.2	内訳(ライフサイクル段階別)	
	原材料調達段階	1.31E+02 kg-CO_2e
	生産段階	6.56E+01 kg-CO_2e
	流通段階	9.84E+01 kg-CO_2e
	使用・維持管理段階	1.31E+02 kg-CO_2e
	廃棄・リサイクル段階	1.64E+02 kg-CO_2e
3.3	CFPマークへの表示方法	
	マーク本体 (必須情報部) の記載内容	＜記載内容＞：590kg ＜表示方法の種別＞：ライフサイクル全体の○○2排出量
	追加情報表示部 の記載内容	（追加情報表示部へ記載する内容をそのまま記入する。）
3.4	備考	
4. 算定条件		
4.1	認定PCRの名称	○○・△△類
4.2	認定PCRの番号	XX-XX-XX-00
4.3	共通原単位データベース名称	カーボンフットプリント制度試行事業○○2換算量共通原単位データベース （暫定版）ver.3.0
4.4	参考データ適用日	2011年○月×日

（※）共通原点にデータベースおよび参考データについては、Webサイト下記ページ参照のこと。
http://www.cfp-japan.jp/calculate/verify/data.html

3.1CFP 算定結果数値（総排出量）
と
3.2 内訳の数値（各段階の排出量）
は数値定義シートで入力した内容が
「下書き生成に」よって反映
されますので入力しないでください。

入力が完了したら「<<スタート」をクリックし、スタートに戻ります。

3.3.3 (2) 詳細情報＜中間財用＞

CFP マークの使用許諾を得た後ウェブサイトで開示される＜中間財＞の詳細情報のシートです。検証申請の対象製品が中間財でない場合にはこのシートを編集する必要はありません。

このシートの各項目の入力・編集は、申請者が通常の Excel の機能を使用して行います。

（記入例）

詳細情報　＜中間財＞
（Webサイト公開資料）

1. 製品情報		
1.1	検証番号	（申請時には記入不要です）
1.2	製品名称(日本語)	▲▲▲▲▲▲
	製品名称(英語)	△△△△△△
1.3	製品型式	AB-○○○○
1.4	製品の主要仕様・諸元	サイズ縦○m、横△m、高さ□m 製品重量×××kg
1.5	CFP算定単位	販売単位 1個
2. 事業者情報		
2.1	事業者名(日本語)	株式会社　○○○○
	事業者名(英語)	○○○○ Co.Ltd.
3. CFP算定結果および表示方法		
3.1	CFP算定結果 (カーボンフットプリント)	197kg　ライフサイクル全体
3.2	内訳(ライフサイクル段階別)	
	原材料調達段階	1.31E+02 kg-CO_2e
	生産段階	6.56E+01 kg-CO_2e
	流通段階	0.00E+00 kg-CO_2e
	使用・維持管理段階	0.00E+00 kg-CO_2e
	廃棄・リサイクル段階	0.00E+00 kg-CO_2e
3.3	CFPマークへの表示方法	
	マーク本体 (必須情報部) の記載内容	＜記載内容＞　＜表示方法の種別＞
	追加情報表示部 の記載内容	（追加情報表示部へ記載する内容をそのまま記入する。）
3.4	備考	
4. 算定条件		
4.1	認定PCRの名称	○○・△△類
4.2	認定PCRの番号	XX-XX-XX-00
4.3	共通原単位データベース名称	カーボンフットプリント制度試行事業CO2換算量共通原単位データベース (暫定版) ver.3.0
4.4	参考データ適用日	2011年○月×日

（※）共通原点にデータベースおよび参考データについては、Webサイト下記ページ参照のこと。
http://www.cfp-japan.jp/calculate/verify/data.html

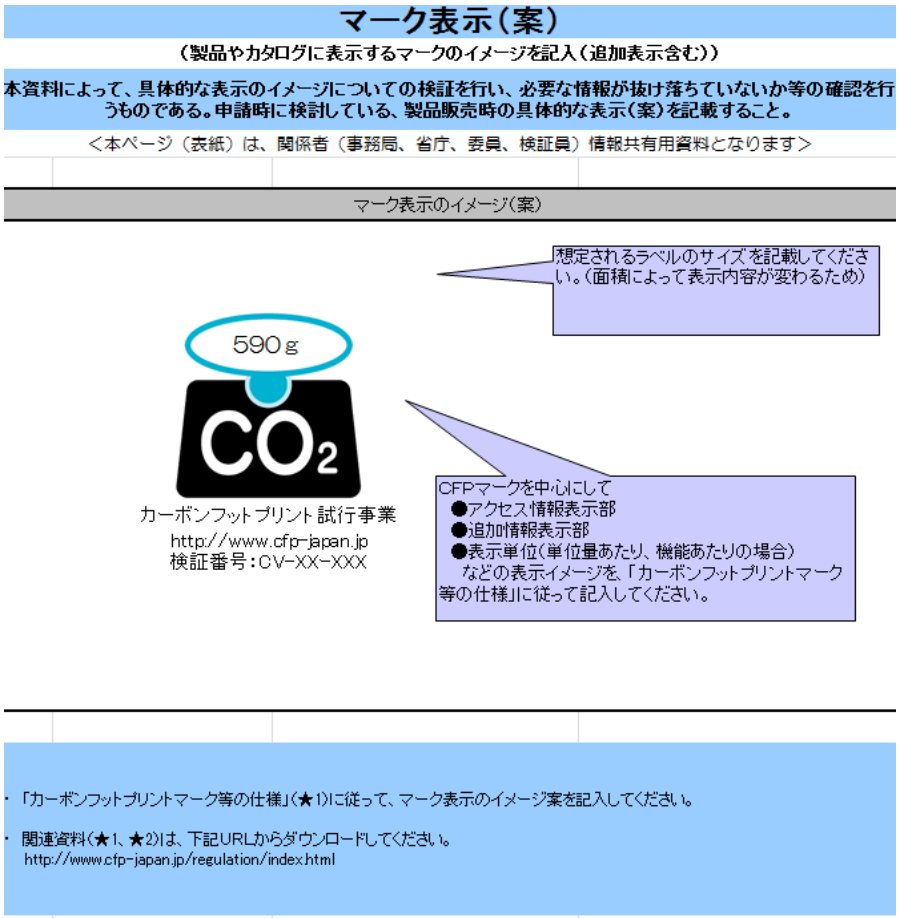
3.1CFP 算定結果数値（総排出量）
と
3.2 内訳の数値（各段階の排出量）
は数値定義シートで入力した内容が
「下書き生成に」よって反映
されますので入力しないでください。

入力が完了したら「<<スタート」をクリックし、スタートに戻ります。

3.3.4 (3) マーク表示

CFP マークの表示に関連する記述のための入力・編集シートです。このシートの各項目の入力・編集は、申請者が通常の Excel の機能を使用して行います。

（記入例）

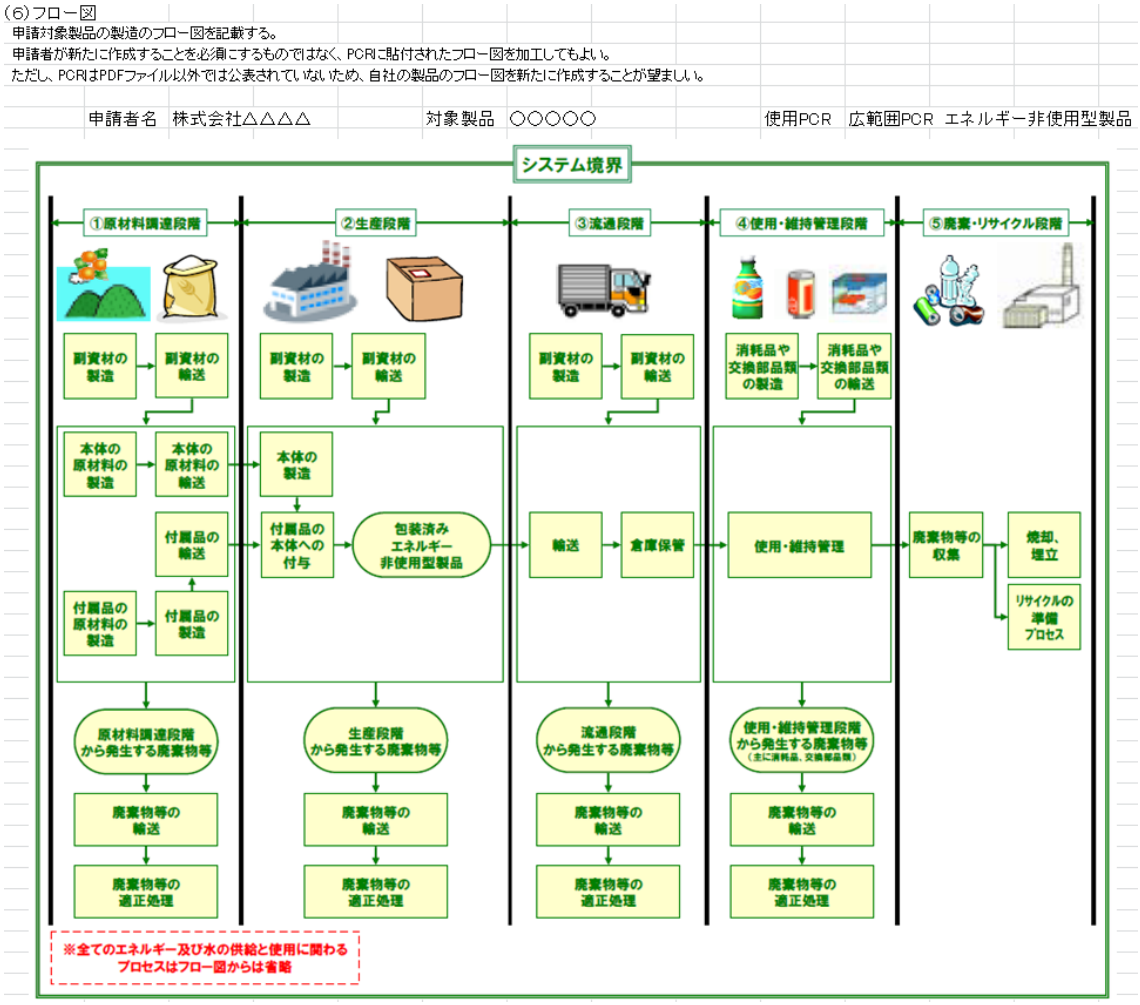


入力が完了したら「<<スタート」をクリックし、スタートに戻ります。

3.3.5 (4) フロー図

製品のフロー図に関連する記述のための入力・編集シートです。このシートの各項目の入力・編集は、申請者が通常の Excel の機能を使用して行います。

（記入例）



入力が完了したら「<<スタート」をクリックし、スタートに戻ります。

3.4 B）数値定義シートの編集

3.4.1 数値定義ユーティリティ

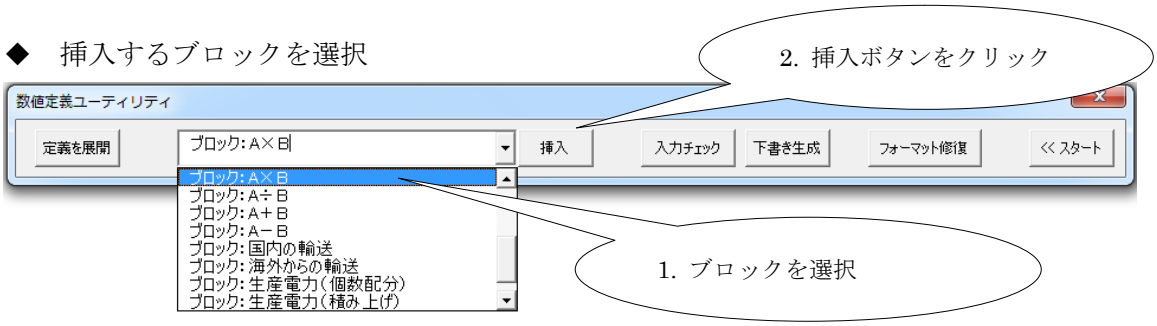
「数値定義」シートではデータの入力支援を行うために「数値定義ユーティリティ」ポップアップメニューが立ち上がります。

3.4.1.1 ブロック挿入

「ブロック挿入」を実施することで「申請書出力行」、など全部の行の種類を追加することができます。加減乗除、輸送といった比較的よく用いられる入力パターンのまとまった複数行を一度に「数値定義」シートへ挿入することが出来ます。「シナリオ定義」シートがインポートされていれば、そこで定義されたブロックもシートへ挿入できます。

(1) 数値定義ユーティリティからブロックを選択して挿入します。

◆ 挿入するブロックを選択



(2) 選択したブロックが一番下の（最初の空行がある位置）に貼り付けられます。

◆ ブロック挿入前

		LC段階など						活動量						
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式種類	計算式内容

◆ A×B のブロック挿入後

		LC段階など						活動量						
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式種類	計算式内容
区切り行														
数値入力行								A	1	kg	エビデンス名			
数値入力行								B	2	個	エビデンス名			
申請書出力行		...	原材料調達			A×B		A×B	2.00E+00	kg		1.次	自動(数値あり)	[A×B]2.00E+00kg =[A]1kg×[B]2個

任意の箇所へブロックを挿入したい場合には、Excel 上の操作で空行を追加（挿入したい箇

所の行番号を右クリック＞挿入）してから「ブロック挿入」を実行します。

(3) 数値やエビデンス名、LC 段階、原単位等を現状にあわせて編集します。

◆ 各値を編集した後の状態

		LC段階など						活動量				
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分
区切り行												
数値入力行								鉄板	1	kg	設計仕様書	
数値入力行								使用枚数	4	枚	設計仕様書	
申請書出力行		1	原材料調達	外装	原材料	製造		製造	4.00E+00	kg		1次

プロセスや項目欄は入力されていないので別途記入が必要です。

数値名・数値等は内容に合わせて修正します。

CFP 算定キットに標準で搭載されているブロックには以下のようなものがあります。（これらのブロックについては、今後のバージョンアップに伴って追加・変更・削除されることがあります。）

◆ 行の種類 ブロック

以下のブロックを選択すると、それぞれの「数値定義」シートで使用される「行の種類」に対応した 1 行が挿入されます。それぞれの「行の種類」の詳細については 3.4.2.1 を参照してください。

- 未設定行
- 使用自由行
- 区切り行
- エビデンスなし値入力行
- 数値入力行
- 申請書出力行（原単位：共通）
- 申請書出力行（原単位：参考）
- 申請書出力行（原単位：無し）

◆ 四則演算 ブロック

以下のブロックを選択すると、2 つの数値とその四則演算を行った数式と結果が挿入されます。

- A×B
- A÷B
- A＋B
- A－B

◆　その他 ブロック

CFP を算定する際にいくつかの PCR で共通で利用されているパターンとして以下のようなものがあります。

- 国内輸送

梱包された部品や材料等をトラックで国内輸送することを想定したブロックです。以下のプロセスを対象としています。

・　国内の拠点間のトラックによる輸送

- 海外からの輸送

梱包された部品や材料等を海外の拠点から国内の拠点まで輸送することを想定したブロックです。海外の港から国内の港の距離についてはそれぞれの港の間の距離や国の間の距離を調べて適用します。以下のプロセスを対象としています。

・　海外の拠点から海外の港までのトラックによる輸送
・　海外の港から国内の港までの船による輸送
・　国内の港から国内の拠点までのトラックによる輸送

- 生産電力（個数配分）

1 個あたりの生産時の使用電力量を、使用した総電力量を総生産個数へ均等に分けて計算して求める場合を想定したブロックです。

- 生産電力（積み上げ）

1 個あたりの生産時の使用電力を、1 時間あたりの機器の定格の使用電力と処理個数と歩留まりから計算して求める場合を想定したブロックです。

- 廃棄物（焼 92・埋 3・リ 5）

「一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成 18 年度実績）について」（環境省）を適用し、処理サイトまでの輸送プロセスを加えてシナリオ化したブロックで、以下のプロセスを対象としています。

・　廃棄物の排出場所から処理サイトまでの輸送
・　廃棄物の焼却処理とその焼却灰の埋立て
・　廃棄物の直接埋立て処理とその焼却灰の埋立て
・　廃棄物のリサイクル準備処理

このシナリオでは以下の割合で排出された廃棄物が処理されるとしています。

・　92%が焼却処理される
・　3%が直接埋立て処理される
・　5%がリサイクル処理される

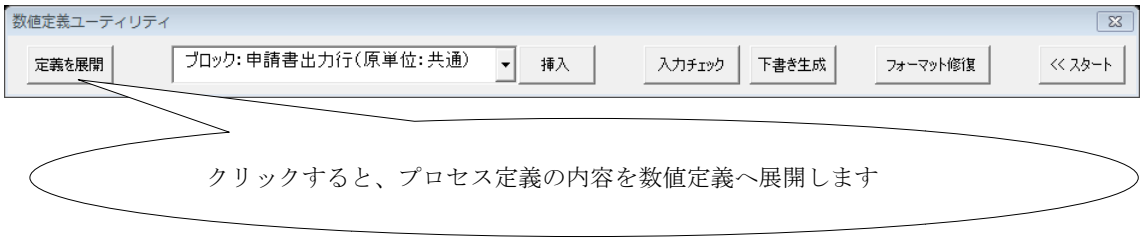
PCR によっては対象とするプロセス、輸送距離や原単位、割合等がブロックで指定された既定のものと異なることがあります。これらのブロックについてはあくまでも編集のベースとして捉え、算定対象の CFP が参照する PCR に準じたものに従って修正してご利用ください。

3.4.1.2 定義を展開

「プロセス定義」が正しく入力されていると、「プロセス定義」で指定された、各項目行が申請書出力行として「数値定義」シートへ転記されます。

CFP 制度試行事業 HP からダウンロードしたテンプレートには、既に定義の展開が済んだ状態の数値定義シートが含まれていますので、**あらためて「定義を展開」する必要はありません。**
通常、独自に「プロセス定義」のシートを作成・編集し、そこから数値定義シートを生成したい場合のみこちらのボタンをご利用ください。なお、この機能を使用するには正しく設定された「プロセス定義」シートが必要となります。

◆　定義を展開ボタン



クリックすると、プロセス定義の内容を数値定義へ展開します

◆　定義を展開前

		LC段階など						活動量		
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値	単位

◆　定義を展開後

		LC段階など						活動量		
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値	単位
申請書出力行		…	原材料調達	表紙	製造	表紙原材料		表紙原材料	1.00E+00	kg
申請書出力行		…	原材料調達	表紙	輸送	表紙原材料		表紙原材料	1.00E+00	tkm
申請書出力行		…	原材料調達	表紙	排水処理	表紙原材料		表紙原材料	1.00E+00	m3
申請書出力行		…	原材料調達	表紙	廃棄物処理	表紙原材料		表紙原材料	1.00E+00	kg
申請書出力行		…	原材料調達	とじ具	製造	とじ具原材料		とじ具原材料	1.00E+00	kg
申請書出力行		…	原材料調達	とじ具	輸送	とじ具原材料		とじ具原材料	1.00E+00	tkm
申請書出力行		…	原材料調達	とじ具	排水処理	とじ				m3
申請書出力行		…	原材料調達	とじ具	廃棄物処					kg
申請書出力行		…	原材料調達	付属品	製造					kg
申請書出力行		…	原材料調達	付属品	輸送	付属品				tkm

プロセス定義に記載されている
データが転記されます。

この状態をベースに「数値入力行」、「エビデンスなし値入力行」などの追加などを行い、「申請書出力行」の数値を作成していきます。

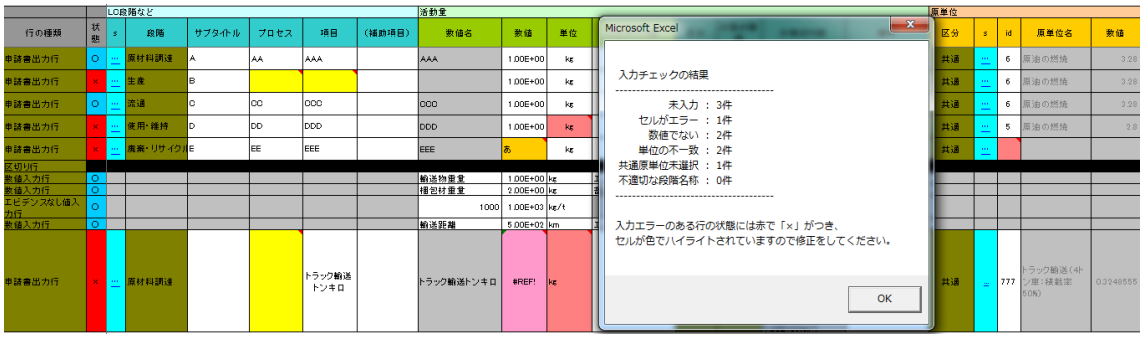
3.4.1.3 入力チェック

CFP 算定キットには「数値定義」シートへの入力が完了し、「下書き生成」を実行する前の段階として入力漏れや単位違い等をチェックする「入力チェック」機能があります。ここではこの機能の手順を説明します。

(1)　「数値定義」シートへの入力が完了した時点で「数値定義ユーティリティ」の「入力チェック」をクリックします。

「入力チェック」をクリック

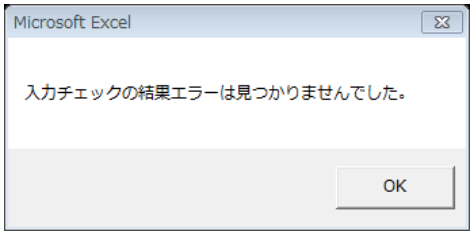
(2) 入力チェックが実行され、結果（エラーの種類毎の件数）が表示されます。



エラーが一つでもある行は状態欄が「×」と表示され、下書き生成を行ってもこの行の内容は申請書へは反映されません。エラーの内容とセルの色の対応は以下の通りです。

表示色	エラー名称	エラー内容	対応
	未入力	入力が必要なセルに情報が入っていない	必要な情報の入力
	セルがエラー	#VALUE!などセルがエラーになっている	数式等のエラーの要因を解消する
	数値でない	数値が入るべきところに入っていない	数値を入れて修正する
	単位の不一致	活動量と原単位の単位が一致していない	原単位・活動量いずれかの単位を修正する
	共通原単位未選択	共通原単位が選択されていない	「s」「id」欄より共通原単位を選択する
	不適切な段階名称	段階名称が所定の５段階に該当していない	セルのプルダウンで段階名を選択する

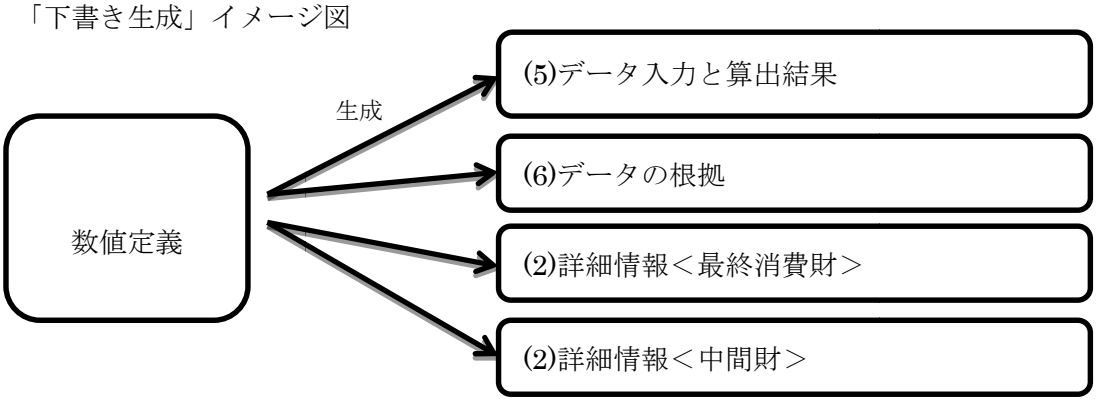
(3)修正後、再度入力チェックを実行し、入力エラーがないことを確認してください。
全てのエラーを解消すれば下記のメッセージが表示されます。



3.4.1.4 下書き生成とGHG排出量の割合の表示

「下書き生成」の実行により数値定義にて入力した情報が「(5)データ入力と算出結果」シート、「(6)データの根拠」シートへ反映され、段階別の排出量の内訳とカーボンフットプリント値についても「(2)詳細情報＜最終消費財＞」「(2)詳細情報＜中間財＞」シートに反映されます。ここでは「下書き生成」の流れを説明します。

◆　「下書き生成」イメージ図



「下書き生成」の前には自動的に「入力チェック」が実行されます。「入力チェック」でエラーがある状態の行は「下書き生成」を実行しても出力対象となりません。

(1)　「入力チェック」が完了した時点で「数値定義ユーティリティ」の「下書き生成」をクリックします。

(2)　「下書き生成」が実行され、「(5)データ入力と算出結果」シート、「(6)データの根拠」シートへ「数値定義」シートで入力した情報が反映されます。

◆　「下書き生成」後＜(5)データ入力と算出結果シート＞

1．データ入力と算出結果の詳細　　非公開資料

（※）算定にあたっては、必ず最新の「認定ＰＣＲ」「共通原単位データベース」「参考データ一覧」を用いてください。
最新のファイルは、下記ＵＲＬよりダウンロードできます。
「認定ＰＣＲ」　http://www.cfo-japan.jp/calculate/authorize/pcr.php
「共通原単位データベース」「参考データ一覧」　http://www.cfo-japan.jp/calculate/verify/data.html

活動量の区分	
1次	申請者の責任で収集した数値
シ1	PCRのシナリオで算出した数値
シ2	PCRのシナリオと1次データ等を併用して算出した数値
シ3	事業者が作成したシナリオ等より算出した数値

原単位の区分	
共通	共通原単位データベースの原単位
参考	事務局が提供する参考データ原単位
無し	原単位を用いない場合（GHG排出量を直接入力した場合）など

50%以上
20%以上
10%以上
5%以上
1%以上

（1）原材料調達段階　　＊「活動量」の数値は、CFP毎に検証が必要です。

サブタイトル	プロセス名	活動量 区分	活動量 項目名	活動量 数値	活動量 単位	活動量 参照箇所	原単位 区分	原単位 原単位名	原単位 数値	原単位 単位	原単位 参照箇所	CO2e kg	備考	段階割合	段階内割合	LC内割合
サブタイトルA	プロセスAA	1次	プロセスAAA（補助項目A）	3.66E+00	kg	A1	共通	発泡ポリスチレン（EPS）	1.95E+00	kg-CO2e/kg	B1	7.14E+00			93.58%	23.19%
サブタイトル輸送A	プロセス輸送AA	1次	プロセス輸送AAA（補助項目輸送A）	1.50E+00	tkm	A2	共通	トラック輸送（4トン車：積載率50%）	3.25E-01	kg-CO2e/tkm	B2	4.88E-01			6.40%	1.59%
小計												7.63E+00		24.78%		

（2）生産段階

サブタイトル	プロセス名	活動量 区分	活動量 項目名	活動量 数値	活動量 単位	活動量 参照箇所	原単位 区分	原単位 原単位名	原単位 数値	原単位 単位	原単位 参照箇所	CO2e kg	備考	段階割合	段階内割合	LC内割合
生産電力サブタイトルM	生産電力プロセスMM	1次	生産電力項目MMM（生産電力補助項目MMM）	2.00E+00	kWh	A3	共通	公共電力	4.79E-01	kg-CO2e/kWh	B3	9.58E-01			10.27%	3.11%
生産電力サブタイトルN	生産電力プロセスNN	1次	生産電力項目NNN（生産電力補助項目NNN）	1.20E+00	kWh	A4	共通	公共電力	4.79E-01	kg-CO2e/kWh	B4	5.75E-01			6.16%	1.87%
生産水使用サブタイトルO	生産水使用プロセスOO	1次	生産水使用項目OOO（生産水使用補助項目OOO）	2.00E+00	m3	A5	共通	上水道	3.48E-01	kg-CO2e/m3	B5	6.[illegible]			7.46%	2.26%
生産時ガスサブタイトルP	生産時ガスプロセスPP	1次	生産時ガス項目PPP（生産時ガス補助項目	2.00E+00	kg	A6	共通	都市ガス13A燃[illegible]				[illegible]			76.10%	23.06%
小計														30.30%		

（3）流通段階

サブタイトル	プロセス名	活動量 区分	活動量 項目名	活動量 数値	活動量 単位	活動量 参照箇所	区分						考	段階割合	段階内割合	LC内割合
製品輸送サブタイトルL	製品輸送プロセスLL	1次	製品輸送項目LLL（製品輸送補助項目LLL）	1.50E+00	tkm	A7	共通								100.00%	1.59%

プロセス、LC 段階、
各段階内での
GHG 排出量の割合が
表示されます

◆　下書き生成後＜(6)データの根拠シート＞

別紙：活動量及び原単位のデータの出所、作成方法　　非公開資料

参照番号	活動量／原単位	データ入手方法（出所、作成方法）	（必要に応じて）関係するエビデンス資料、説明資料の名称
A1	活動量	備考原料A投入量 （原料A投入量）3.66E+00kg＝（原料A）3.0kg÷（歩留まり率）0.82率	製品仕様書 生産管理票 原料A生産月報
B1	原単位	共通原単位 発泡ポリスチレン（EPS）	共通原単位
A2	活動量	備考原料A輸送量 （トラック輸送トンキロ）1.50E+00tkm＝（原料A輸送丈量）3kg×（国内距離）500km÷（1000）1,000kg/t	A1結果 PCRシナリオ A1結果、PCRシナリオ
B2	原単位	共通原単位 トラック輸送（4トン車：積載率50%）	共通原単位
A3	活動量	（1個あたりの生産時の電力機械M）2.00E+00kWh＝（年間総電力量）1.00E+04kWh/年÷（総生産個数）5.00E+03個/年	電力明細2010年1月～12月 生産実績2010年1月～12月
B3	原単位	共通原単位 公共電力	共通原単位
A4	活動量	（1個あたりの生産時の電力機械N）1.20E+00kWh＝（年間総電力量）6.00E+03kWh/年÷（総生産個数）5.00E+03個/年	電力明細2010年1月～12月 生産実績2010年1月～12月
B4	原単位	共通原単位 公共電力	共通原単位
A5	活動量	（1個あたりの生産時の水使用量）2.00E+00m3＝（年間総水使用量）1.00E+04m3/年÷（総生産個数）5.00E+03個/年	電力明細2010年1月～12月 生産実績2010年1月～12月
B5	原単位	共通原単位 上水道	共通原単位
A6	活動量	（1個あたりの生産時の電力）2.00E+00kg ＝（年間総ガス量）1.00E+04kg/年÷（総生産個数）5.00E+03個/年	電力明細2010年1月～12月 生産実績2010年1月～12月
B6	原単位	共通原単位 都市ガス13Aの燃焼	共通原単位
A7	活動量	（トラック輸送トンキロ製品L）1.50E+00tkm＝（製品重量L）3kg×（国内距離）500km÷（1000）1,000kg/t	製品仕様書 シナリオ値 PCRシナリオ、製品カタログ
B7	原単位	共通原単位 トラック輸送（4トン車：積載率50%）	共通原単位
A8	活動量	（使用時電力使用量）1.20E+01kWh＝2	エビデンス名
B8	原単位	共通原単位 公共電力	共通原単位
A9	活動量	（廃棄物輸送トンキロG）0.22tkm＝（廃棄物重量）2.20kg÷（1000）1000kg/t×（廃棄物輸送距離）100km	製品カタログ シナリオ PCRシナリオ、製品カタログ
B9	原単位	共通原単位 トラック輸送（4トン車：積載率50%）	共通原単位
A10	活動量	（焼却処理重量H）2.02kg＝（廃棄物重量）2.20kg×（焼却処理の割合）92%÷（100）100%	製品カタログ シナリオ PCRシナリオ、製品カタログ
B10	原単位	共通原単位 焼却処理（一般廃棄物）	共通原単位
A11	活動量	（埋立処理重量I）0.31kg＝（廃棄物重量）2.20kg×（埋立処理の割合）14%÷（100）100%	製品カタログ シナリオ PCRシナリオ、製品カタログ
B11	原単位	共通原単位 埋立処分（一般廃棄物）	共通原単位
A12	活動量	（リサイクル準備重量J）0.31kg＝（廃棄物重量）2.20kg×（埋立処理の割合）14%÷（100）100%	製品カタログ シナリオ PCRシナリオ、製品カタログ

◆　GHG 排出量の割合の表示

「下書き生成」を実施した後の「(5)データ入力と算出結果」シートには GHG 排出量の割合が表示されます。これによりライフサイクル内での重大な排出源の把握がしやすくなります。この情報はこの後の最終的な CFP 検証申請書を生成した際にはそちらの「(5)データ入力と算出結果」シートには反映されません。

名称	記載内容
段階割合	各 LC 段階毎の排出量合計が全 LC 段階の排出量合計に占める割合
段階内割合	ある排出源が各 LC 段階での排出量全体に占める割合
LC 内割合	ある排出源が全 LC 段階の排出量合計に対して占める割合

対象に対して占める割合				
50% 以上	20% 以上	10% 以上	5% 以上	1% 以上

この GHG 排出量の割合の数値は有効桁数の取扱いにより小数点レベルで数値が若干前後し、合計が 100%とならないこともあります。

3.4.1.5 フォーマット修復

誤操作などで色や罫線、数式やデータ入力規則などフォーマットの形式が乱れてしまった箇所の修復を行います。計算式の修復は入力チェックや下書き生成の時にも行われます。

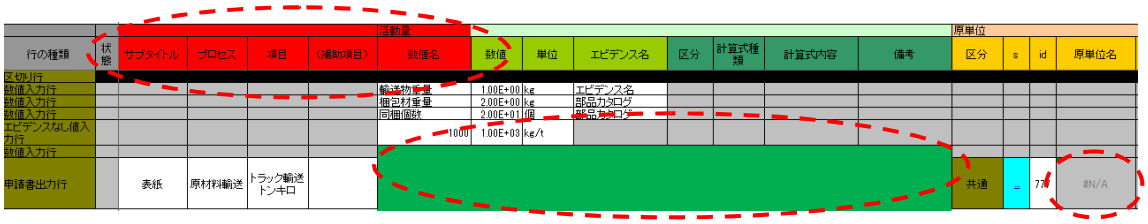
> 修復の際に数値定義シートの入力内容を失うことがありますので、バックアップを作成してから、修復を進めることが推奨されます。

以下のセルについてはセルが数式やハイパーリンクであるべきなので上書きされます。

- 申請書出力行の s 列（LC 段階、原単位）の値
- 申請書出力行の数値名
- 申請書出力行で共通原単位が選択されている場合の、原単位名、数値、単位
- 申請書出力行の計算式内容

セルの書式やパターン等は行の種類に対応したもので一律に上書きされます。

◆ 修復前



◆ 修復後

3.4.2 各項目の説明･解説

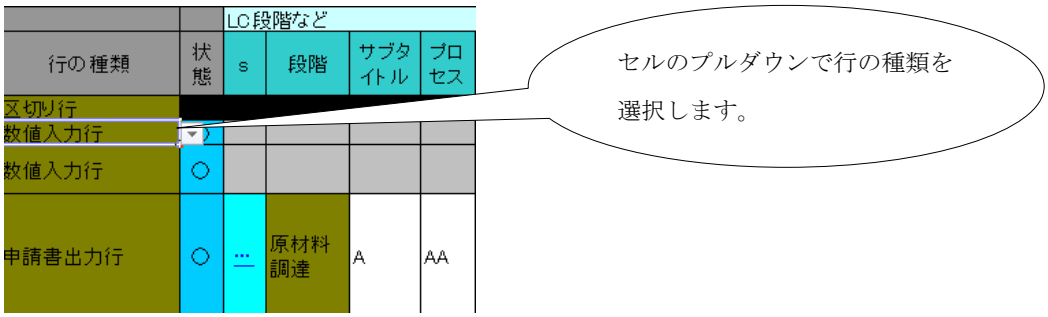
ここでは「数値定義」シート上の各項目についての説明・解説を行います。

3.4.2.1「行の種類」の項目

行の種類の列のセルをアクティブにするとセルのプルダウンで行の種類を選択することができます。行の種類によって入力・編集領域がそれぞれ異なります。

> 行の種類を変更するとその行にそれまで入力した内容は失われますので申請書に項目を追加する際には必ず行の種類を選択後に入力を開始してください。

◆　行の種類について



◆　各行の種類毎の入力・編集可能な項目

		LC段階など						活動量							
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式種類	計算式内容	備考
未設定行															
使用自由行															
区切り行															
エビデンスなし値入力行								A	1.00E+00	kg					
数値入力行								A	1.00E+00	kg	エビデンス名				
申請書出力行		…	原材料調達	表紙	輸送	表紙原材料		表紙原材料	1.00E+00	kg	エビデンス名	1次	自動（数値あり）	〔表紙原材料〕1.00E+00kg＝1.00E+00kg	表紙の備考

それぞれの行の種類について説明します。

◆　申請書出力行

申請書の「(3)データ入力と計算結果」シート上へ出力される行です。

「数値入力行」、「エビデンスなし値入力行」、等の数値・計算を踏まえた活動量及び原単位の数値によって項目毎の GHG 排出量を算定し、表示する行です。

◆　数値入力行

重量、面積、歩留まり率など実数値を入力する行です。
活動量計算時の構成要素となる数値で、この数値の根拠を示すエビデンスが存在する行を指します。

◆　エビデンスなし値入力行

例えば二酸化炭素の分子量など、エビデンスを要さない自明なものを入力する行です。活動量計算時の構成要素となる数値で、エビデンスがなくてもよい行を指します。

◆　区切り行

ブロックや LC 段階の区切りなどに使用する行です。
計算には使用されないため、数値等は入力できません。

◆　使用自由行

上記のいずれにも分類不可な数値等があった際に使用します。通常は使用しません。

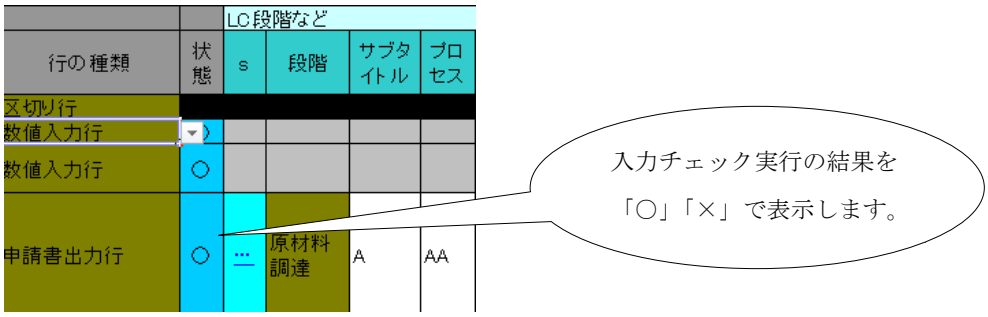
◆　未設定行

上記のいずれにも設定されていない行を指します。通常は使用しません。

3.4.2.2「状態」の項目

後述する入力箇所の抜けや活動量・原単位の使用単位等の一致状況を確認する「入力チェック」機能を利用した際の結果が表示される項目です。

◆　行の種類・状態について



○が出ている行はチェックの結果、エラーがないとされた行、
×が出ている行は記述に誤りがあるために修正が必要であると判断された行です。
×の行の記述を修正しないとその行は「下書き生成」時に出力されません。

3.4.2.3「LC 段階」の各項目

LC段階など

-	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)
…	原材料調達	表紙	製造	表紙原材料	
…	原材料調達	表紙	輸送	表紙原材料	
…	原材料調達	表紙	排水処理	表紙原材料	
…	原材料調達	表紙	廃棄物処理	表紙原材料	
…	原材料調達	とじ具	製造	とじ具原材料	
…	原材料調達	とじ具	輸送	とじ具原材料	

◆　「s」欄

この列の「…」部をクリックすると「プロセス定義」シートの内容を呼び出し、段階、サブタイトル、プロセス、項目欄に反映させることが可能です。詳しくは後述の「3.4.3.1 プロセスの選択」を参照してください。この機能は有効な「プロセス定義」シートが存在している場合に使用可能です。

◆　段階

LC 段階の名称をセルのプルダウンより選択します。誤った LC 段階名は入力できないようにデータ入力規則がかかっています。

ここへ記入した内容は「(5)データ入力と算出結果」の LC 段階へ反映されます。

◆　サブタイトル

LC 段階の対象サブタイトル項目を入力します。(記入例：表紙、留め具、PS 版、インクなど)

ここへ記入した内容は「(5)データ入力と算出結果」のサブタイトルへ反映されます。

◆　プロセス名

サブタイトル項目のどのようなプロセスかを入力します。(記入例：製造、輸送、排水処理など)

ここへ記入した内容は「(5)データ入力と算出結果」のプロセス名へ反映されます。

◆　項目名

活動量の項目の名称を入力します。(記入例：表紙原材料、インク原材料、ペン先原材料、ファスナー原材料など)

ここへ記入した内容は「(5)データ入力と算出結果」の活動量の項目名へ反映されます。

◆　補助項目名

活動量の項目の名称の補助的な内容を入力します。（記入例：材質 A、70×30 ㎝サイズ、L サイズなど

「 (5)データ入力と算出結果」の活動量の項目名へ（）付きで反映されます。

3.4.2.4「活動量」の各項目

		LC段階など						活動量							
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式種類	計算式内容	備考
区切り行															
数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス名				
数値入力行								梱包材重量	2.00E+00	kg	部品カタログ				
数値入力行								同梱個数	2.00E+01	個	部品カタログ				
エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t					
数値入力行								輸送距離	5.00E+02	km	エビデンス名				
申請書出力行		…	原材料調達	表紙	原材料輸送	トラック輸送トンキロ		トラック輸送トンキロ	5.50E-01	kg		1次	自動(数値あり)	〔トラック輸送トンキロ〕5.50E-01kg＝〈〔輸送物重量〕1.00E+00kg＋〔梱包材重量〕2.00E+00kg÷〔同梱個数〕2.00E+01個〉×〔輸送距離〕5.00E+02km÷〔1000〕1.00E+03kg/t	

◆　数値名

各数値の構成名称を入力します。

ここへ記入した内容は「 (6)データの根拠」のデータ入手方法欄に反映されます。

（記入例：部材 A 投入量、部材 A 歩留まり、部材 A 投入量、製品 B 輸送量

廃棄物焼却処理の割合、製品 C 輸送量（トンキロ）など）

◆　数値

各項目の構成要素の数値又は数式を入力します。

なお、比率％（割合）は予め小数で表示しておくと小数に直す行が減り、簡潔にできます。

（70%は 0.7 として入力する）

（記入例：0.70、 21.4、 =O23 +O24、 =O23 /O24 ）

ここへ記入した内容は「(6)データの根拠」のデータ入手方法欄に反映されます。

また、申請書出力行の場合は「(5)データ入力と算出結果」の活動量欄にこの数値が反映されます。複数の数値から構成される申請書出力行の数値の場合に、数式を設定しておくと、その数式が参照する数値と数値名を解析し、計算式を自動生成します。

◆　単位

各項目の構成要素の単位を入力します。（記入例：kg、kWh、tkm、%、MJ など）

ここへ記入した内容は申請書出力行以外の場合は「 (6)データの根拠」のデータ入手方法欄

に反映されます。申請書出力行の場合は「(5)データ入力と算出結果」の活動量の数値欄にこの数値が反映されます。

◆　エビデンス名

各項目のエビデンス名称を入力します。

（記入例：生産月報、製品仕様書、認定 PCR　xx-xx-xx シナリオなど）

ここへ記入した内容は「(6)データの根拠」のエビデンス名称欄に反映されます。

◆　区分

活動量のデータ区分をセルのプルダウンから選択します。内容は以下の通りです。

１次	申請者の責任で収集した数値
シ１	PCR のシナリオで算出した数値
シ２	PCR のシナリオと１次データ等を併用して算出した数値
シ３	事業者が作成したシナリオ等より算出した数値

※CFP 検証申請書　(5)データ入力と算出結果から引用

ここへ記入した内容は「(5)データ入力と算出結果」の活動量欄に反映されます。

◆　計算式種類

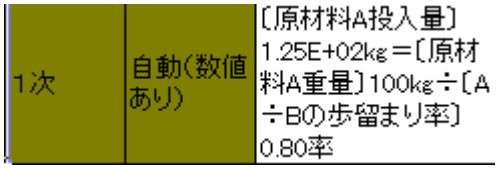
数値欄に計算式を用いた上で算出した数値の詳細をどう表現するかをセルのプルダウンから選択します。ここへ記入した内容は「(6)データの根拠」データ入手方法欄に反映されます。

計算式種類：

①　自由記述⇒自分で自由に計算式の内容を記載します。

②　自動（数値あり）⇒用いた数値と数値名が表示された状態で「データの根拠」シートに記載されます。

自動（数値あり）時の表示例



③　自動（数値なし）⇒用いた数値名のみが表示された状態で「データの根拠」シートに記載されます。

自動（数値なし）時の表示例

1次	自動(数値なし)	〔原材料A投入量〕＝〔原材料A重量〕÷〔A÷Bの歩留まり率〕

◆　備考

「データの根拠」シートへ出力する備考内容があれば入力します。

ここへ記入した内容は「(6)データの根拠」のデータ入手方法欄に反映されます。

3.4.2.5「原単位」の各項目

原単位						
区分	s	id	原単位名	数値	単位	データの根拠
共通	…	104003	原油のボイラーでの燃焼	3.28	kg	

◆　区分

原単位のデータ区分をセルのプルダウンから選択します。内容は以下の通りです。

共通	共通原単位データベースの原単位
参考	事務局が提供する参考データ原単位
無し	原単位を用いない場合（GHG 排出量を直接入力した場合）　など

※CFP 検証申請書　(5)データ入力と算出結果から引用

ここへ記入した内容は「(6)データの根拠」の欄のデータ入手方法欄、「(5)データ入力と算出結果」の原単位欄へ反映されます。

◆　「s」「id」欄

原単位のデータ区分によって動作が異なります。

区分が「参考」「無し」の時には使用しません。

区分が「共通」の時には、ハイパーリンクのあるセルをクリックすることで、「共通原単位データベース」シートへ移動し、目的とする原単位のデータ（「原単位名」、「数値」、「単位」）を選択することが出来ます。使用する原単位の「公開用整理番号」を把握していれば「id」欄に直接その番号を入力することも可能です。詳しくは後述の「3.4.3.2 共通原単位の選択」

を参照してください。

◆　単位名、数値、単位

CFP 制度試行事業事務局提供の参考データや原単位を使用しない場合（GHG 排出量を直接入力するケース）に必要な項目を入力します。共通原単位を使用した際はこれらの項目に入力は不要で、「共通原単位」シートから読みこまれた値が表示されます。
ここへ表示されている内容は「(5)データ入力と算出結果」シートの原単位の内容欄と「(6)データの根拠」のデータ入手方法欄に反映されます。

◆　データの根拠

参考データ利用時の説明や共通原単位の割り当て等、別途原単位について記載する内容がある場合に入力します。ここへ表示されている内容は「(6)データの根拠」の関係するエビデンス資料、説明資料の名称の欄に反映されます。

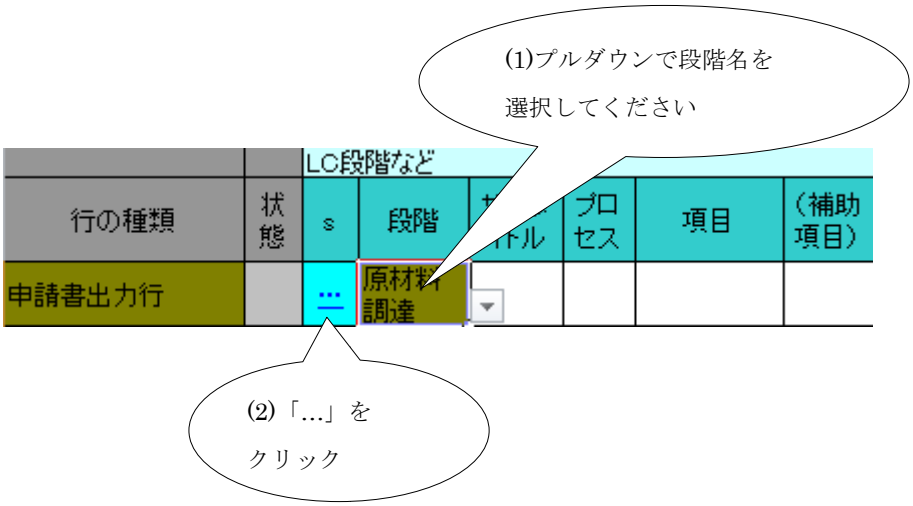
3.4.3 その他の機能

3.4.3.1 プロセスの選択

「数値定義」シートの LC 段階など欄にプロセス定義のデータを反映させることができます。ここではその手順を説明します。

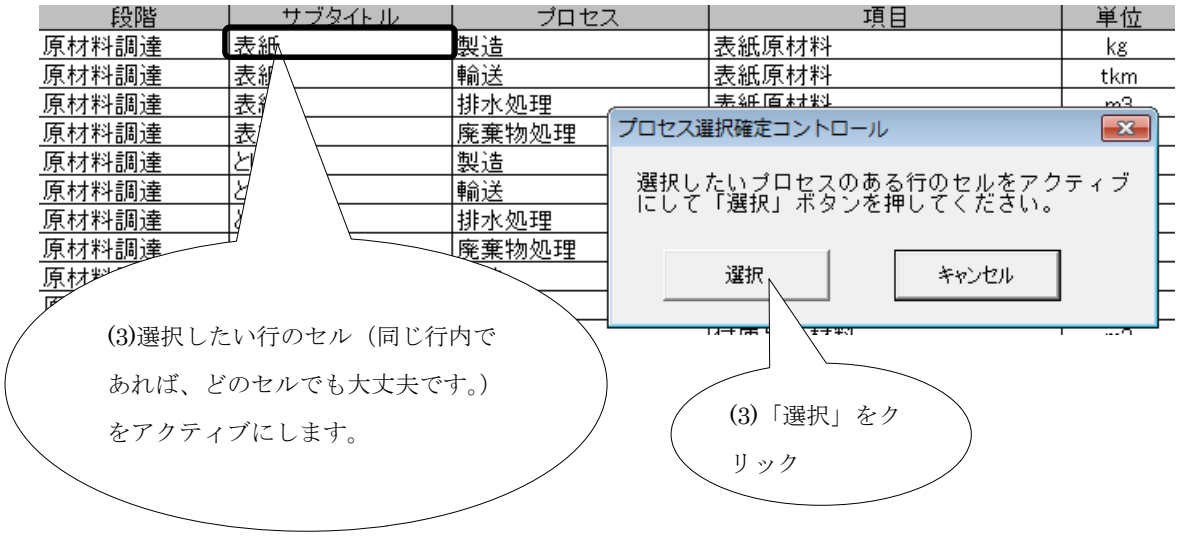
> この機能は有効なプロセス定義シートがインポートされている場合のみ使用できます。
> インポートの手順については、2.3 を参照してください。

(1)　段階の列のセルのプルダウンでその項目のあてはまる LC 段階を選択します。



(2) 「s」欄の「…」をクリックすると、「プロセス定義」シートが立ち上がります。

(3) 入力したいプロセスのある行のセルをクリックしてアクティブにした状態で「プロセス選択確定コントロール」の「選択」ボタンを押します。



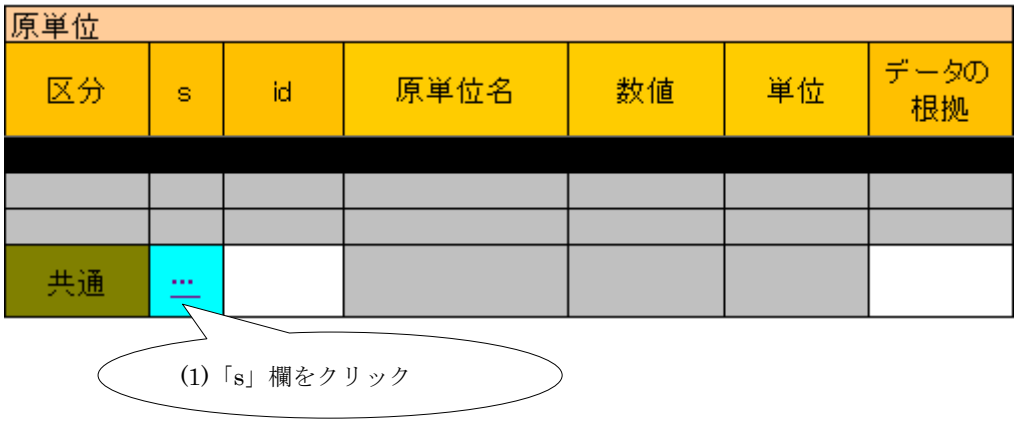
(4) LC 段階などの各項目に内容が反映されます。

		LC段階など					
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）
申請書出力行		…	原材料調達	表紙	製造	表紙原材料	

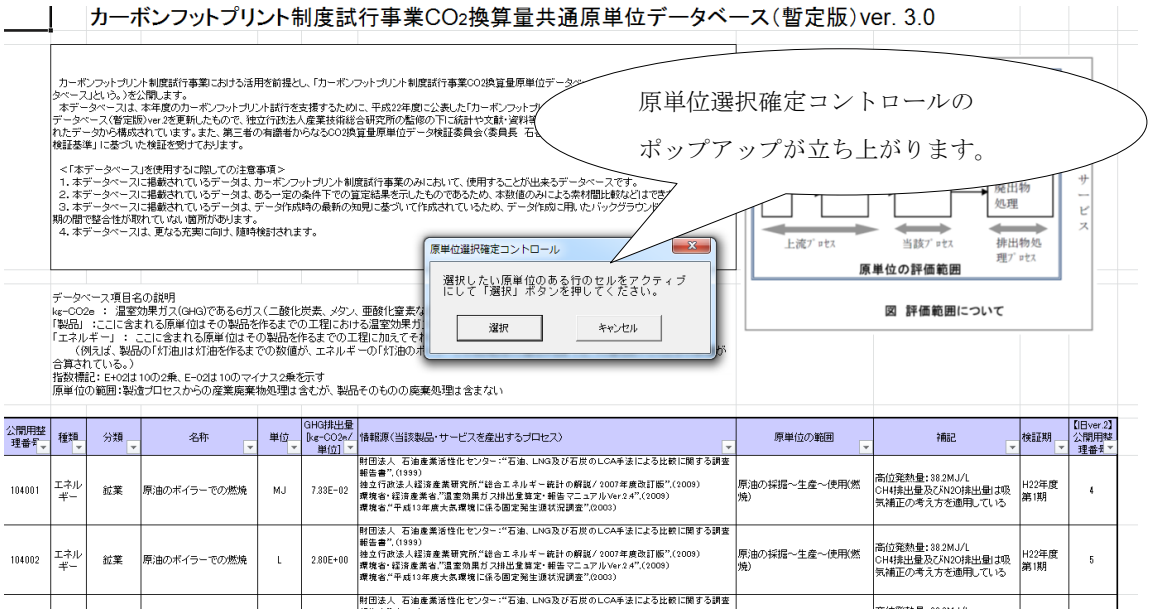
3.4.3.2 共通原単位の選択

数値定義の原単位欄に共通原単位のデータを反映させることができます。ここではその手順を説明します。

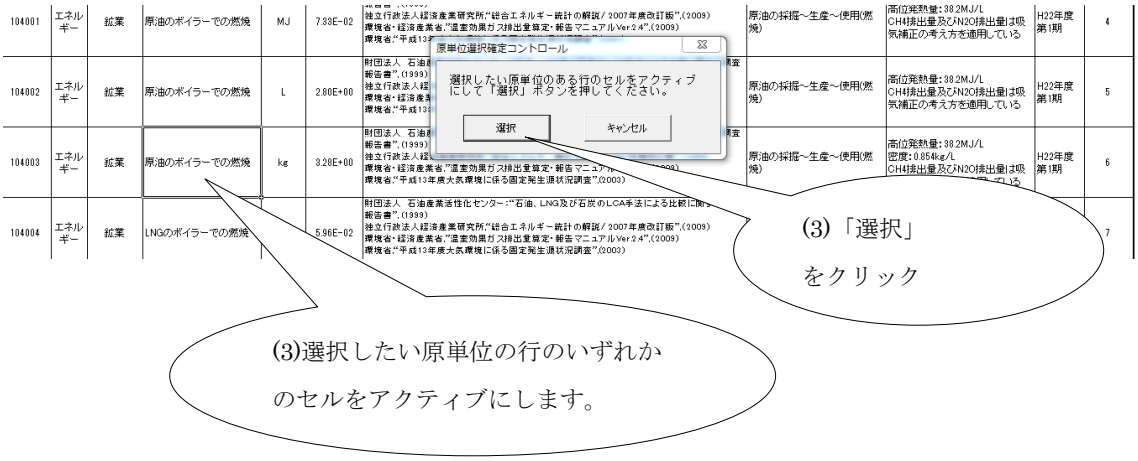
(1) 原単位欄の「s」欄をクリックします。



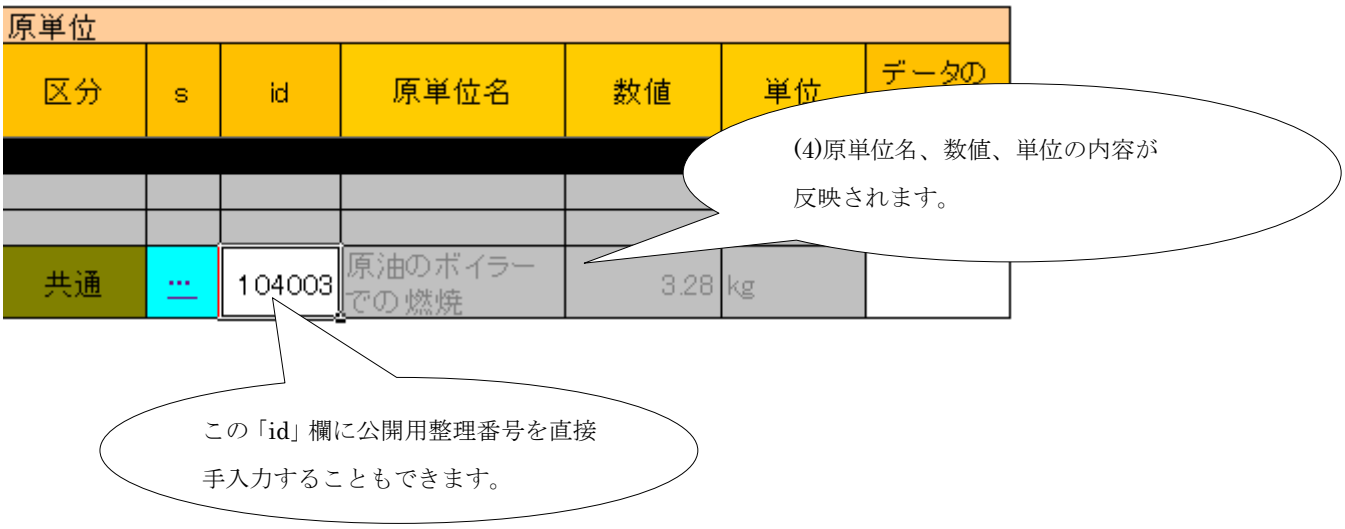
(2) 「共通原単位」シートが立ち上がります。



(3) 使用する原単位の行のいずれかのセルをアクティブにした状態で「原単位選択確定コントロール」ポップアップの「選択」をクリックします。



(4) 原単位の名前や数値等、内容が「数値定義」シートに反映されます。



活動量と原単位の使用単位が文字として完全に一致していないと「入力チェック」でエラー表示されますのでご注意ください。特に同じ原単位名で MJ、L、kg など原単位が用意されている単位が複数あるものを使用する際はご注意ください。

3.4.3.3「数値定義」シート上の基本的な動作について

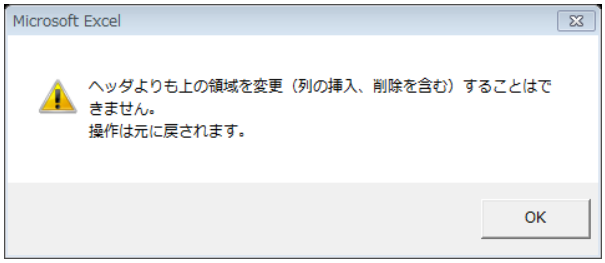
CFP 算定キットは Microsoft Excel 上で動作しますので、Excel の操作の多くを申請書作成

へ活用できるようになっています。「数値定義」シートの編集を進める際に必要と考えられる代表的な Excel 操作及び操作方法を以下に記載します。

- 入力内容の削除⇒削除キー「Del」
- 入力内容のコピー⇒「Ctrl+C」あるいは「右クリック＞コピー」
- 入力内容のペースト（貼り付け）⇒「Ctrl+P」あるいは「右クリック＞貼り付け」
- 行の追加⇒「追加したい行番号を右クリック＞挿入」
- 行の削除⇒「追加したい行番号を右クリック＞削除」
- 文字の書式変更⇒「任意のセル上で右クリック＞セルの書式設定＞変更したい項目」

ヘッダーを含む領域より上は変更できないようにロックがされていますので、列の追加・削除はできません。その際は下記のメッセージが表示され、操作は元に戻されます。文字の拡大や列の幅の調整は可能です。

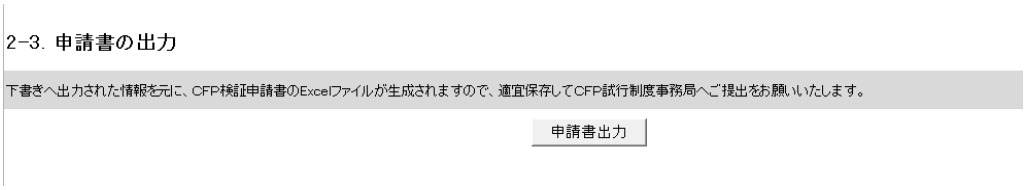
◆　ヘッダー領域へ編集を加えた場合のエラーメッセージ



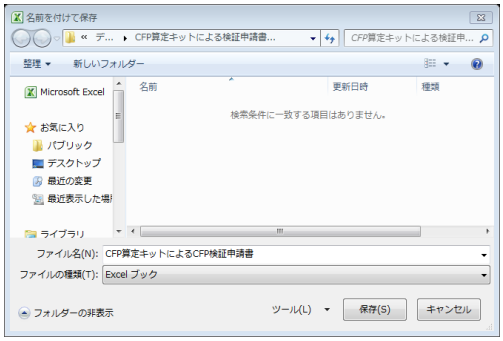
4. CFP 検証申請書の出力と保存

CFP 制度試行事業事務局へ提出する CFP 検証申請書を出力し保存します。
ここではその手順を説明します。

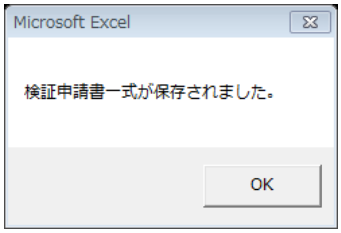
(1) スタートの 2-3「申請書出力」ボタンをクリックします。



(2) 自動的に別のブックとして CFP 検証申請書が作成されますので、そのブックを「名前を付けて保存」します。



(3) 保存が完了すると下記のメッセージが表示されます。



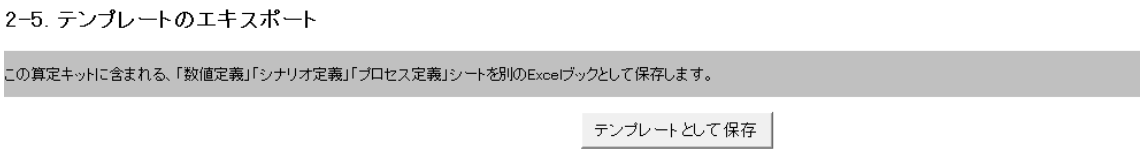
(4) 保存したファイルを開き、入力した内容が反映されているかを確認してください。反映されていれば、CFP 検証申請書作成は完了です。

CFP 検証申請書を事務局へ提出後、申請書に不備や間違いが見つかった場合には、直接申請書を編集するのではなく、CFP 算定キット内の「数値定義」シートを編集した上で、「下書き生成」⇒「申請書出力」を行います。変更点が明確になり、検証時の負担が低減されます。

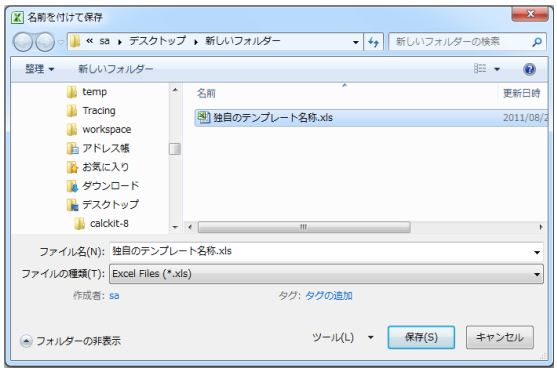
5. テンプレートとして保存

算定キットに含まれる「数値定義」「プロセス定義」「シナリオ定義」の各シートをテンプレート（一つの Excel のブック）として保存して他の算定キットで使用できるようにします。ここではその手順を説明します。

(1) スタートの 2-5「テンプレートとして保存」ボタンをクリックします。

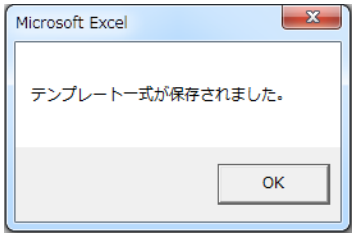


(2) 自動的に別のブックとしてテンプレートが作成されますので、そのブックを「名前を付けて保存」します。



Excel 2010 では保存前に「互換性チェック」のダイアログが表示されることがありますが、その場合には「続行」ボタンをクリックしてください。

(3) 保存が完了すると下記のメッセージが表示されます。



6. 算定キットの終了

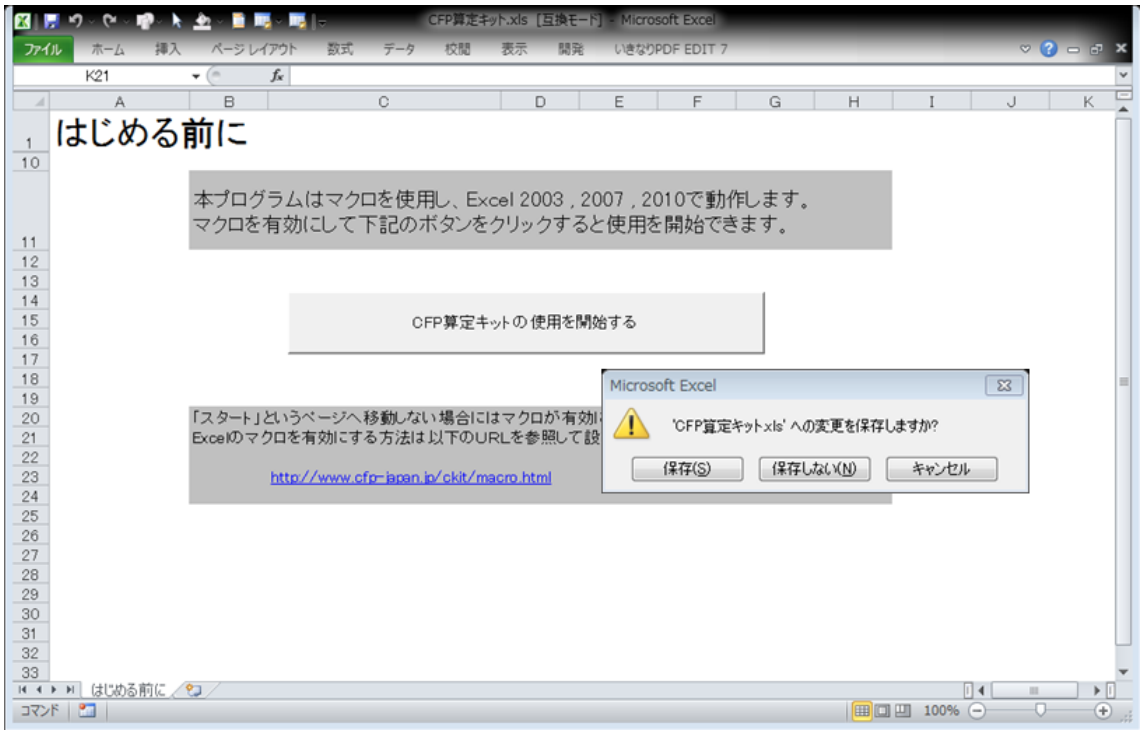
CFP 算定キットの終了は、通常の Excel を終了する方法で終了します。

・　ウィンドー右上の「×」印をクリック
・　メニューバー　＞　ファイル　＞　終了

「○○○○を保存しますか？」と聞かれますので、

「保存」　　⇒　変更内容を保存して終了する
「保存しない」　⇒　変更内容を保存しないで終了する
「キャンセル」　⇒　終了しない

◆　保存の確認ダイアログが表示された状態



「キャンセル」を選択した場合には、「はじめる前に」シートが表示されているので、もう一度、CFP 算定キットを開始するには、中央の「CFP 算定キットの使用を開始する」ボタンを押します。

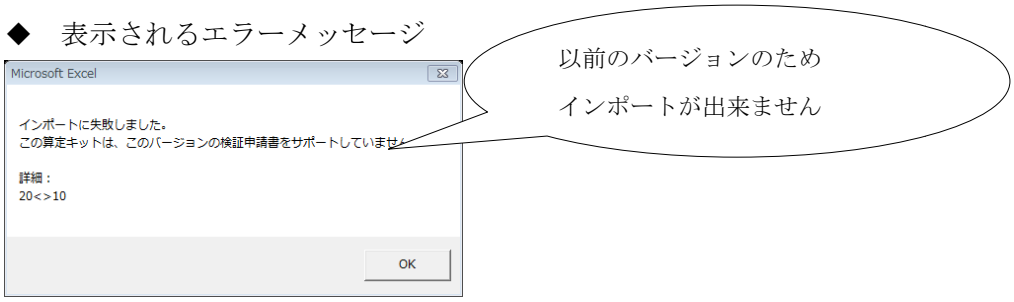
7. その他（注意事項等）

7.1 インポート時の注意点

7.1.1 バージョンチェック

「CFP 検証申請書」ファイル及び「共通原単位」ファイルに関して、バージョンチェック機能によってお使いの算定キットと互換性がない場合にはインポートが出来ません。そのため、これらのメッセージが出た場合には最新の CFP 算定キットファイルを CFP 制度試行事業 HP（http://www.cfp-japan.jp/）からダウンロードしてください。

◆　表示されるエラーメッセージ



7.1.2 テンプレートのインポートについて

テンプレートのインポートに関してヘッダー行部分に改変を加えられたシートを含む場合には以下のメッセージが出現し、インポートを実行できません。
例えば、独自に「プロセス定義」シートや「数値定義」のシートを編集し、項目名称を変更、行や列を挿入して、元のヘッダーと異なる形や位置となっている場合、インポートは行えません。

◆　通常のヘッダー

数値定義

		LC段階など						活動量			
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値	単位	エビデンス名

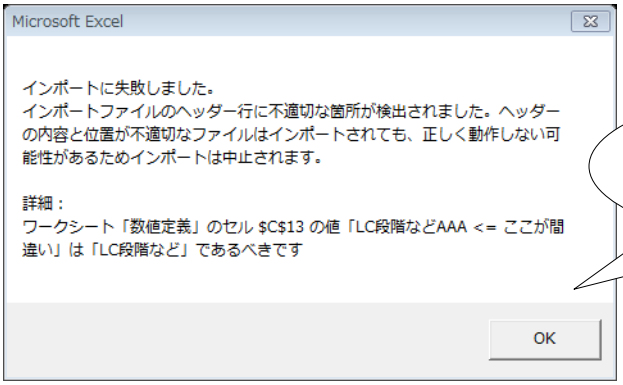
◆　改変されたヘッダーの例

数値定義

「LC 段階など」が改変されている為
インポート出来ません

		LC段階などAAA <= ここが間違い						活動量			
行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	（補助項目）	数値名	数値	単位	エビデンス名
申請書出力行	○	…	原材料調達	包装資材	廃棄物処理	段ボール		段ボール	1.00E+00	MJ	エビデンス名

◆　表示されるエラーメッセージ

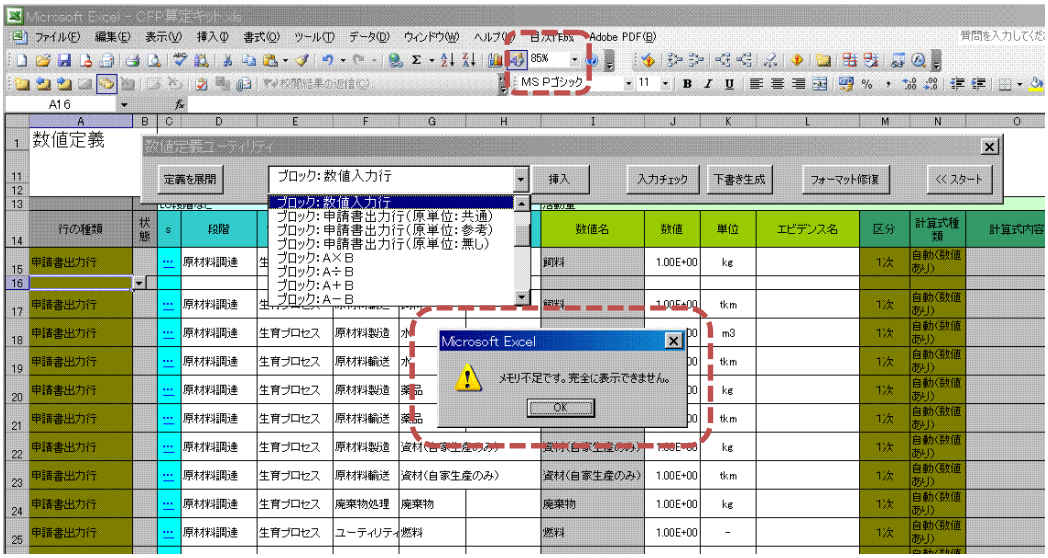


修正を要する箇所の中で最も先頭
側の箇所の内容が記載されます

7.2 その他のメッセージ

7.2.1「メモリ不足です。完全に表示できません」メッセージ

「数値定義」シートを編集中に、Excel のズーム機能で表示サイズを 100%以外に設定している場合に以下のエラーが表示されることがありますが、「OK」ボタンをクリックして続行します。



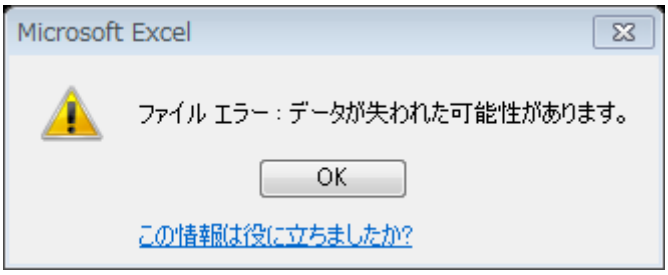
頻繁に表示されるようであれば、

表示　＞　ズーム　＞　倍率

において、倍率を 100%に指定することで解消されることがあります。

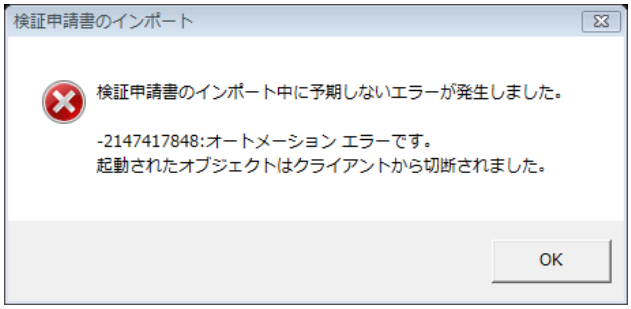
7.2.2「ファイルエラー:データが失われた可能性があります。」メッセージ

各種外部ファイルをインポートした後に CFP 算定キットを立ち上げると以下のようなメッセージが表示されることがあります。これは外部ファイル中に、外部へリンクしているデータがあり、そのシートをそのまま CFP 算定キットへインポートして取り込んだために起きるエラーです。
このエラーは通常一度だけ表示され、予防するためには外部リンクを全て削除した外部ファイルをインポートする必要があります。通常はこのエラーはメッセージが表示される以外には特に実害がないため無視して作業を進めても問題はありません。



7.2.3「検証申請書のインポート中に予期しないエラーが発生しました」メッセージ

Excel 2003 の環境においてのみ、CFP 算定キットにパスワードがかかっており、かつ、2011/6/14 更新版の検証申請書をインポートした場合に以下のエラーが発生することが確認されており、Excel のバグによるものと考えられています。



本エラーの回避方法としては、以下の 3 通りがあります。

1. 最新の CFP 算定キットをダウンロードして検証申請書をインポートしない
   （最新の CFP 算定キットには最新の検証申請書が含まれているため）

2. CFP 算定キットのパスワードを空に設定して後検証申請書をインポートする
   （パスワードが設定されていない場合には Excel 2003 環境でも検証申請書がインポートできます）

3. Microsoft Excel 2007 又は 2010 にて検証申請書をインポートする
   （Microsoft Excel 2007,2010 ではパスワードの設定の有無にかかわらず、検証申請書がインポートできることが確認されています）

以上